

令和6年度
(2024年度)

教 育 計 画

滋賀県立総合保健専門学校
看護専門課程 看護学科

目 次

I. 教育目的・目標（看護専門課程 看護学科）	1
1. 教育理念	1
2. 教育目的	1
3. 教育目標	1
II. 看護の主要概念	2
III. 分野・領域の考え方	3
IV. 教育課程の構造図	6
V. 授業科目・授業時間数および単位数	7
VI. 実習要綱	
1. 授業科目（臨地実習）	9
2. 実習計画表	10
3. 実習施設	11
VII. 行事計画	13
VIII. 授業科目内容	
1. 基礎分野	14
2. 専門基礎分野	29
3. 専門分野	52
基礎看護学	55
地域・在宅看護論	71
成人看護学	77
老年看護学	84
小児看護学	89
母性看護学	94
精神看護学	99
看護の統合と実践	105
臨地実習	110
IX. 事例のマトリックス	122
X. 看護技術のマトリックス	124

I. 教 育 目 的 ・ 目 標（看護専門課程 看護学科）

1. 教育理念

生命の尊厳と人権の尊重を基盤とした看護を探究し、実践できる専門職業人を育成する。

2. 教育目的

看護師として必要な基礎的知識・技術と態度を育み、生命の尊厳および人権の尊重を基盤に、対象に応じた看護を実践し、地域の人々に貢献し得る人材を育成する。

3. 教育目標

- 1) 看護の対象に関心を持ち、人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解する能力を身につける。
- 2) 良好な人間関係を形成し、看護を実践するためのコミュニケーション能力を身につける。
- 3) 科学的根拠に基づき、対象や状況の変化に応じた看護を判断し、実践するための基礎的能力を身につける。
- 4) 健康の保持・増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和に関わる看護を、多様な対象・多様な場において実践するための基礎的能力を身につける。
- 5) 看護師としての責務を自覚し、倫理に基づく看護を実践するための能力を身につける。
- 6) 保健・医療・福祉システムにおける自らの役割と他職種の役割を理解し、多職種と連携・協働しながら看護を提供するための基礎的能力を身につける。
- 7) 看護師として自己を見つめ、創造的に看護を探究し続ける能力を身につける。

Ⅱ. 看 護 の 主 要 概 念

人間

- ・人間とは、身体的、精神的、社会的側面を統合した存在である。
- ・人間とは、唯一無二の存在であり、基本的権利を有し、尊重されるべき存在である。
- ・人間とは、自然治癒力を持ち、環境に適応する力を持つ存在である。
- ・人間とは、自己実現に向けて成長・発達し、変化し続ける存在である。
- ・人間とは、他者との相互関係の中で支えあい、生活を営む存在である。

環境

- ・環境とは、恒常性を維持する内部環境と、自然・社会・文化的側面をもつ外部環境がある。
- ・環境とは、人間と相互に作用し合い、健康と生活に影響を及ぼすものである。
- ・環境とは、変化し続けるものである。

健康

- ・健康とは、疾病の有無に関わらず、身体的、精神的にバランスがとれた状態である。
- ・健康とは、生活や環境の影響をうけるものである。
- ・健康とは、生活の質を高めて、その人らしく生きていくことである。
- ・健康とは、自らが保ち、守られるべきものである。

看護

- ・看護とは、あらゆる発達段階における、様々な健康状態にある人々を対象とする。
- ・看護とは、健康の保持・増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和を行い、その人らしくあるように継続的に関わることである。
- ・看護とは、専門的知識・技術を用いて、科学的根拠に基づいて行う実践的活動である。
- ・看護とは、状況に応じて、対象の持てる力を最大限に発揮できるように、働きかけるものである。
- ・看護とは、対象との相互関係の中で成り立つものである。
- ・看護とは、保健・医療・福祉チームの一員として、多職種と連携・協働しながら、多様な場において人々の健康と生活を支えるものである。

Ⅲ. 分野・領域の考え方

基礎分野

基礎分野は、看護師としてだけでなく、社会人として必要な能力を育むことを意図して構成している。科学的思考につながる科目として、「物理学」では看護につながる物理的現象について理解する。また、「論理的思考」では論理的に物事を考える素地を育み、自己の考えを表現する方法を学ぶ。「情報科学」では、現代社会に必要な情報通信技術（ICT）の基礎と情報の活用について学ぶ。「環境人間学」では、地球規模から滋賀県至る環境について学び、フィールドワークを通して感性を磨くとともに、学生の自由で主体的な行動を育む。「社会学」「教育学」「心理学」「経済学」では、人間と生活や社会について幅広く学ぶ。また、「人間関係論」では人間関係の希薄化が進む現代において、円滑な人間関係を築き、看護に必要なカウンセリング理論と技法を学ぶ。「倫理学」と「哲学対話」では、倫理学の基礎や多様な価値観について理解し、自己の思考を深化させる基礎的な能力を養う。「英語」では医療現場における英会話を中心とし、看護師として国際化へ対応しうる能力を養う。

専門基礎分野

専門基礎分野は、看護を実践するために不可欠な幅広い基礎的知識や、現代医療のあり方について学ぶ。「解剖生理学」「生化学」「栄養学」「臨床薬理学」「臨床検査」「病理学」「病態生理学」「疾病・治療論」では、人体の構造と機能や、疾病の成り立ちと回復の促進について理解し、臨床判断の素地を養う。「公衆衛生学」「健康支援論」「リハビリテーション論」「社会保障制度」「総合医療論」「関係法規」で健康状態に応じて社会資源を活用できるよう支援し、専門職業人として活動を継続するために必要な基礎的能力を養う。

基礎看護学

看護を取り巻く社会情勢は急速に変化しており、保健・医療・福祉のいずれの場においても看護師の役割は大きくなっている。看護活動の場は、医療機関に限らず在宅や施設へ拡大しており、多様で複雑な対象に応じた看護を実践する能力が求められている。基礎看護学は他の専門科目の土台となり、看護の概念と看護に必要な知識・技術・態度を学び、多様な対象、多様な場において看護を実践するための基礎を学ぶ。科目構成は「看護学概論」において看護の基礎となる概念を学ぶ。また、あらゆる看護場面に共通して必要となる技術を「共通基本技術」、日常生活を支える技術を「日常生活援助技術」、診療場面に必要となる技術を「診療に伴う技術」とする。その他、臨床看護につなげる科目として「臨床看護総論」「フィジカルアセスメント」を構成している。

地域・在宅看護論

少子・高齢化社会や疾病構造の変化など、社会的背景をふまえた医療提供体制の整備や地域包括ケアシステムが推進されている。地域での医療は、地域で暮らす人々と保健医療従事者とのパートナーシップにより展開され、看護師も地域でその役割を発揮することが求められている。このような背景をふまえ、第5次カリキュラム改正では、地域における看護実践を拡充する目的で「在宅看護論」から「地域・在宅看護論」に名称変更された。

地域・在宅看護論では、地域で暮らす人々の健康の保持・増進や疾病の予防に向けての看護、病気や障害をもちながら地域で生活する人と家族の看護を学ぶ。看護活動の場は多様で、看護の対象も様々である。また、対象の健康レベルの変化に伴い、看護の場が移行することから、継続看護が不可欠となる。人々のQOLの維持・向上を目指し、多職種や多機関と連携しながら、地域の人々の健康や暮らしを支えるための看護を学ぶ。

成人看護学

少子高齢化が進み、労働人口の減少が社会的な問題となり久しい。家族・地域・社会のあり方の変容や働き方の多様化など、成人を取り巻く環境は常に変化している。

成人期の対象は、健康観・生活観・人生観など個々の価値観を明らかにし、生活習慣や生活様式を確立している。また、家庭・地域・社会において多くの役割を担い、社会的責任が大きい。身体面では、一生で最も高い機能を有する時期から、徐々に加齢現象が顕在化し、生活習慣病を発症しやすい。また、心理面では、ストレスによる健康問題を生じやすい年代である。このような成人期の特徴をふまえ、健康の保持・増進や健康障害を抱えながら社会生活を営むことができるように、対象者と家族を支える看護を学ぶ。

老年看護学

少子化や単独世帯が増加し、介護者不足や孤独死などが社会的な問題となっている。健康寿命に注目し、その人らしく生き生きとした生活を送り、人生の最期を迎えることができるような取り組みが重要視されている。

本校では、老年看護学を「高齢者看護学」として、老いる年代として捉えるのではなく、成人期の延長として豊かな生活体験をもち、人生の完結に向かう年代であると考え『高齢者』という表現を用いることとした。

高齢者看護学では、加齢現象について理解を深めたうえで、社会における施策、生活を支える看護、健康寿命を延ばす看護について学ぶ。また、老年期は個性が大きく、多様な生き方があることを理解し、人として尊重し、最後の時期をその人らしく過ごすための支援について、家族を含めた看護を実践できる能力を養う。

小児看護学

子どもや家族のあり様は社会の変化とともに多様化し、生活習慣病、こころの問題や自殺、親の育児不安や児童虐待など、子どもに関わる問題は複雑化している。

小児看護学では、子どもは環境に影響をうけながら成長・発達し続ける存在としてとらえる。子どもの権利を擁護し、健やかな発育を支えるための仕組みを理解し、成長・発達を促す看護を学ぶ。

また、あらゆる健康状態、あらゆる場における子どもと家族を対象とし、発達段階に応じた看護を学ぶ。

母性看護学

女性の就労・結婚・家族のあり方・出産・子育ての価値観は多様化し、女性のライフスタイルは多岐にわたっている。本校では母性看護学を「ウィメンズヘルス看護」とし、周産期の女性をイメージする「母性看護学」から、ライフサイクルならびにライフステージにともなう女性の健康を支える看護を総称する表現を用いることとした。

ウィメンズヘルス看護では、女性の一生を通して、性と生殖の問題に関わり、女性の健康の保持・増進を目指したヘルスプロモーションに加えて、子宮および乳房など女性特有の健康障害時の看護について学ぶ。そして、次世代を担う子どもたちの養育に関連して、育児の孤立化や産褥メンタルヘルスなどから母子の地域包括支援について学ぶ。

精神看護学

ストレス社会の中で、心の健康問題は複雑化している。また、基本的な人権をふまえ、精神に障害がある人々の権利や尊厳に対する擁護が重要視されている。精神保健医療福祉は施設中心の医療から、地域支援へと大きく変化し、従来の長期入院患者や、急性期患者に対する治療やケアのみならず看護の役割も多様になっている。

精神看護学では、生涯に渡る心の健康を脅かす様々な要因を理解し、人々の心の健康を支える看護を学ぶ。また、精神障害者についての理解を深め、権利や尊厳を擁護しつつ、その人を取りまく環境にも注目し、障害の有無にかかわらず、その人らしく生きていくための看護を学ぶ。

看護の統合と実践

「看護の統合と実践」は、看護基礎教育と卒業後の実践を結びつけることを意図して構成している。看護実践に必要な臨床判断能力を養うとともに、チーム医療における看護師としてのメンバーシップやリーダーシップの発揮、多職種との連携・協働について理解する。また、現場で起こりやすい医療事故の現状と対策、災害時や世界に視野を広げた看護について学ぶ。さらに、看護の専門性および質の向上について追究する態度を身につけ、科学的根拠に基づいた看護の実践につなげる能力を養う。

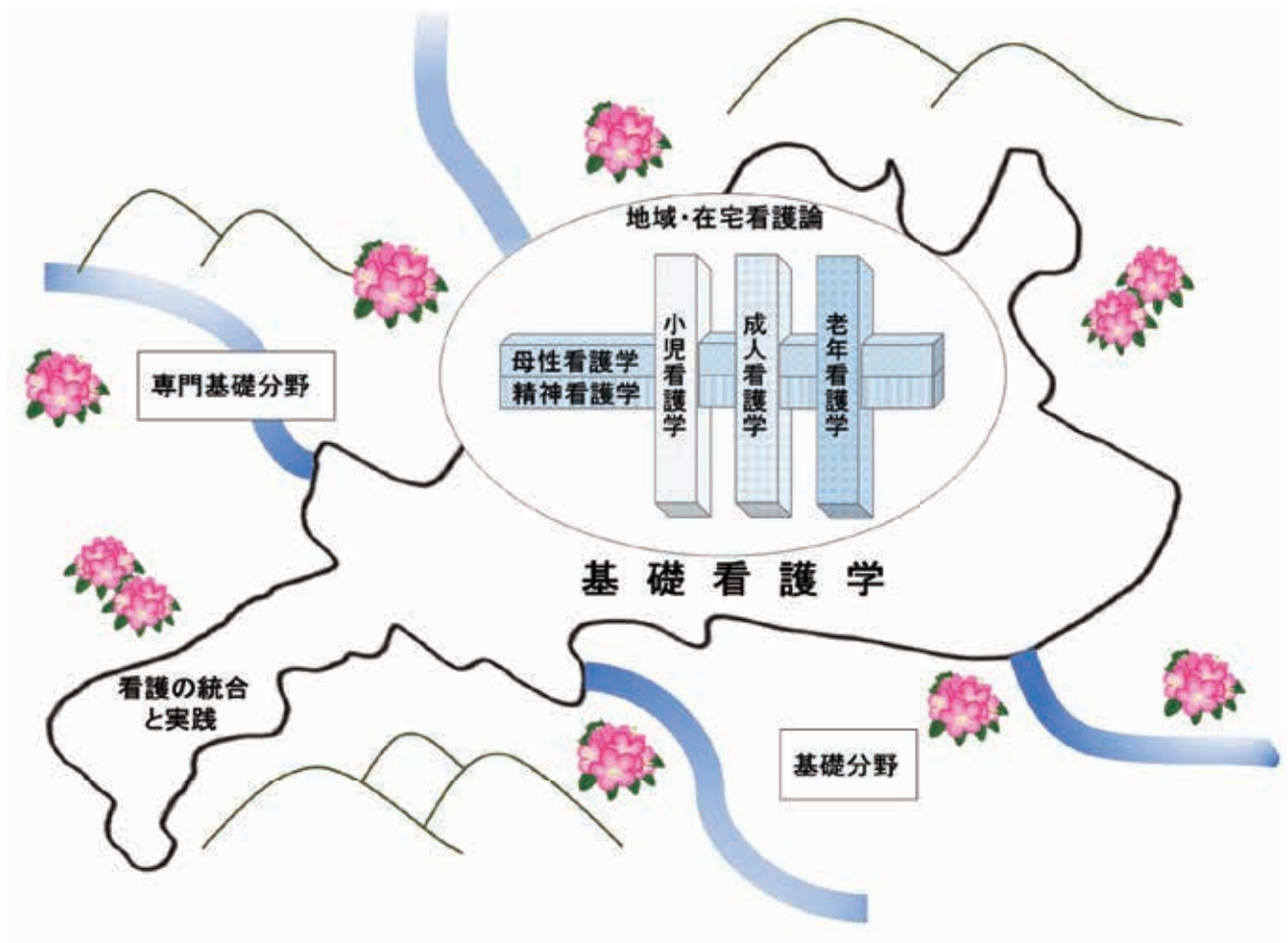
IV. 教育課程の構造図

◆びわ湖

滋賀の象徴であるびわ湖は、山々を源流とする河川が流れ込み、豊かな水量を湛えている。また、日本最大の面積を誇り、北湖と南湖に区分される。人々の暮らしや産業の発展に不可欠な水を提供するだけでなく、全層循環によって豊かな生態系を保っている。人々はびわ湖から豊富な恵みを授かり『Mother Lake』と讃えている。



*全層循環：冬季になり、湖面の水が冷やされることにより、表面部の水と湖底部の水が入れ替わる現象。これにより、湖底部に空気（酸素）が供給され、湖の底部でも生物が生きられる。この現象は『琵琶湖の深呼吸』と呼ばれている。



滋賀の象徴であるびわ湖を『看護の湖』に見立てて構造化した。

びわ湖に流れ込む河川を「基礎分野」や「専門基礎分野」とし、『看護の湖』を潤し育む位置づけとした。

「基礎看護学」は、全層循環が生態系の維持に不可欠であるように、他の看護学の礎となる。また、人間の発達段階にそって「小児看護学」「成人看護学」「老年看護学」が存在する。加えて、全ての人々を対象とし、心の健康に関わる「精神看護学」と、生涯にわたる女性の健康に関わる「母性看護学」を位置づけた。それらを包含するように「地域・在宅看護論」が存在し、地域で生活する全ての人々を対象とする看護を担う。「看護の統合と実践」では、北湖で培った看護の力を統合しつつ南湖へと進み、卒業生の一人ひとりには『石楠花（滋賀県の花）』が花咲くように、看護専門職として社会に貢献する。

V. 授業科目・授業時間数および単位数

授業科目			単位	時間	年次					
					1年次		2年次		3年次	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎分野	科学的思考の 基盤	物理学	1	30	30					
		論理的思考	1	30	30					
		情報科学Ⅰ（情報リテラシー）	1	15		15				
		情報科学Ⅱ（情報の活用）	1	30				30		
		環境人間学	1	30	30					
		小 計	5	135	90	15	0	30	0	0
	人間と生活・ 社会の理解	社会学	1	30	30					
		人間関係論Ⅰ（人間関係形成の基礎）	1	30	30					
		人間関係論Ⅱ（援助的人間関係の基礎）	1	15				15		
		哲学対話	1	15					15	
		教育学	1	30	30					
		心理学	1	30	30					
		英 語	1	30					30	
		経済学	1	15					15	
		倫理学	1	15	15					
		小 計	9	210	135	0	0	15	60	0
	計		14	345	225	15	0	45	60	0
専門基礎分野	人体の構造と 機能	解剖生理学Ⅰ（細胞 骨格・筋 皮膚・免疫）	1	30	30					
		解剖生理学Ⅱ（呼吸 血液 循環）	1	30	30					
		解剖生理学Ⅲ（消化・吸収 腎・泌尿器 生殖）	1	30	30					
		解剖生理学Ⅳ（神経 内分泌 感覚）	1	30	30					
		生化学	1	30	30					
		小 計	5	150	150	0	0	0	0	0
	疾病の成り立ち と回復の促進	栄養学	1	15		15				
		臨床薬理学	1	30		30				
		臨床検査	1	30		30				
		病理学	1	15	15					
		病態生理学	1	15		15				
		疾病・治療論Ⅰ（筋・骨格器系疾患 消化器疾患）	1	30		30				
		疾病・治療論Ⅱ（呼吸器疾患 循環器疾患）	1	30		30				
		疾病・治療論Ⅲ（脳神経疾患 内分泌疾患）	1	30			30			
		疾病・治療論Ⅳ（血液・造血器疾患 女性生殖器疾患）	1	30			30			
		疾病・治療論Ⅴ（腎・泌尿器疾患 アレルギー・免疫疾患）	1	30				30		
		疾病・治療論Ⅵ（感覚器疾患）	1	15				15		
		小 計	11	270	15	150	60	45	0	0
	健康支援と 社会保障制度	公衆衛生学	1	15					15	
		健康支援論	1	15		15				
		リハビリテーション論	1	15			15			
		社会保障制度	1	30		30				
		総合医療論	1	15					15	
		関係法規	1	15					15	
		小 計	6	105	0	45	15	0	45	0
	計		22	525	165	195	75	45	45	0
専門分野	基礎看護学	看護学概論	1	30	30					
		共通基本技術Ⅰ（技術の概念・人間関係成立の技術）	1	15	15					
		共通基本技術Ⅱ（環境・バイタルサイン・感染予防）	1	30	30					
		共通基本技術Ⅲ（看護過程）	1	30		30				
		日常生活援助技術Ⅰ（運動・休息）	1	30	30					
		日常生活援助技術Ⅱ（清潔・衣）	1	30		30				
		日常生活援助技術Ⅲ（食・排泄）	1	30		30				
		診療に伴う技術Ⅰ（診療の補助技術）	1	30		30				
		診療に伴う技術Ⅱ（治療時の看護）	1	30			30			
		臨床看護総論	1	30		30				
		フィジカルアセスメント	1	30			30			
	小 計		11	315	105	150	60	0	0	0

授業科目			単位	時間	年次					
					1 年次		2 年次		3 年次	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門分野	地域・在宅看護論	地域・在宅看護概論Ⅰ（地域と暮らし）	1	15	15					
		地域・在宅看護概論Ⅱ（健康と暮らしを支える看護）	1	30			30			
		地域・在宅看護概論Ⅲ（地域での療養を支える看護）	1	15				15		
		地域・在宅看護援助論Ⅰ（健康の保持増進・疾病の予防に関わる看護）	1	15			15			
		地域・在宅看護援助論Ⅱ（在宅で療養する人と家族の看護）	1	30				30		
		地域・在宅看護援助論Ⅲ（在宅療養を支える援助技術）	1	30				30		
	小 計		6	135	15	0	45	75	0	0
	成人看護学	成人看護学概論	1	30		30				
		成人看護学援助論Ⅰ（急性期にある対象の看護）	1	30			30			
		成人看護学援助論Ⅱ（回復期にある対象の看護）	1	30			30			
		成人看護学援助論Ⅲ（慢性期にある対象の看護）	1	30				30		
		成人看護学援助論Ⅳ（終末期にある対象の看護）	1	15				15		
		成人看護学援助論Ⅴ（がん治療を受ける対象の看護）	1	15				15		
	小 計		6	150	0	30	60	60	0	0
	老年看護学	高齢者看護学概論	1	15		15				
		高齢者看護学援助論Ⅰ（健康支援と日常生活援助）	1	30			30			
		高齢者看護学援助論Ⅱ（認知症と終末期の看護）	1	30				30		
		高齢者看護学援助論Ⅲ（検査・治療に伴う看護）	1	30				30		
	小 計		4	105	0	15	30	60	0	0
	小児看護学	小児看護学概論Ⅰ（小児看護の役割）	1	15		15				
		小児看護学概論Ⅱ（子どもの成長と発達）	1	30			30			
		小児看護学援助論Ⅰ（疾患・障害のある子どもの看護）	1	30			30			
		小児看護学援助論Ⅱ（健康の段階・発達段階に応じた看護）	1	30				30		
	小 計		4	105	0	15	60	30	0	0
	母性看護学	ウィメンズヘルス看護概論Ⅰ（女性の健康と看護）	1	15		15				
		ウィメンズヘルス看護概論Ⅱ（女性のライフサイクルと看護）	1	30			30			
		ウィメンズヘルス看護援助論Ⅰ（妊娠期・分娩期の看護）	1	30			30			
		ウィメンズヘルス看護援助論Ⅱ（産褥期・新生児期の看護）	1	30				30		
	小 計		4	105	0	15	60	30	0	0
	精神看護学	精神看護学概論Ⅰ（精神看護の概念と健康支援）	1	30		30				
		精神看護学概論Ⅱ（精神保健福祉活動の動向）	1	15			15			
		精神看護学援助論Ⅰ（疾患の理解と看護の特徴）	1	30			30			
		精神看護学援助論Ⅱ（疾病の経過に応じた看護）	1	30				30		
	小 計		4	105	0	30	45	30	0	0
	看護の統合と実践	総合看護	1	30					30	
		看護医療安全	1	30				30		
		災害看護	1	30					30	
		臨床看護実践	1	15					15	
	小 計		4	105	0	0	0	30	75	0
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ（看護を知る実習）	1	45	45					
		基礎看護学実習Ⅱ（入院生活をおくる対象の理解と日常生活援助）	2	90		90				
		基礎看護学実習Ⅲ（看護の展開）	2	90			90			
		地域・在宅看護論実習Ⅰ（地域で生活する人々の健康支援）	2	60			60			
		地域・在宅看護論実習Ⅱ（地域で生活・療養する人と家族の看護）	2	90						90
		成人・高齢者看護学実習Ⅰ（成人期・老年期の特徴と健康障害をふまえた看護）	2	90				90		
		成人・高齢者看護学実習Ⅱ（状況の変化に合わせた看護）	2	90					90	
		小児看護学実習	2	90					90	
		ウィメンズヘルス看護実習	2	90						90
		精神看護学実習	2	90					90	
		統合実習Ⅰ（臨床判断能力）	2	90						90
		統合実習Ⅱ（看護の統合）	2	90						90
		小 計		23	1005	45	90	150	90	270
	計		66	2130	165	345	510	405	345	360
合 計			102	3000	555 555		585 495		450 360	
					1110		1080		810	
					41単位		38単位		23単位	

VI. 実 習 要 綱

1. 授業科目（臨地実習）

授業科目			単位	時間	時期	施設	目 的
専 門 分 野	基礎看護学	基礎看護学実習Ⅰ (看護を知る実習)	1	45	1年 前期	病院 訪問看護 ステーション	様々な場における看護活動の実際を学ぶ。
		基礎看護学実習Ⅱ (入院生活をおくる対象 の理解と日常生活援助)	2	90	1年 後期	病院	入院生活をおくる対象を理解し、日常生活 援助を通して看護を実践するための基礎的 能力を養う。
		基礎看護学実習Ⅲ (看護の展開)	2	90	2年 前期	病院	健康障害をもつ対象の看護を実践するた めの基礎的能力を養う。
	地域・在宅看護論	地域・在宅看護論実習Ⅰ (地域で生活する人々の 健康支援)	2	60	2年 前期	介護老人保健施設 介護老人福祉施設 看護小規模多機能 型居宅介護事業所 保育園 こども園	地域で生活する人々への健康支援を学ぶ。
		地域・在宅看護論実習Ⅱ (地域で生活・療養する 人と家族の看護)	2	90	3年	訪問看護 ステーション 地域包括 支援センター	地域包括支援センターの活動や訪問看護の 実際を理解し、地域で生活する人々の看護 を実践するための基礎的能力を養う。
	成人・老年看護学	成人・高齢者看護学 実習Ⅰ (成人期・老年期の 特徴と健康障害を ふまえた看護)	2	90	2年 後期	病院	成人期・老年期の特徴と健康障害をふまえ、 看護を実践するための基礎的能力を養う。
		成人・高齢者看護学 実習Ⅱ (状況の変化に合わ せた看護)	2	90	3年 前期	病院	成人期・老年期の特徴と健康障害をふまえ、 状況の変化に合わせた看護を実践するた めの基礎的能力を養う。
	小児 看護学	小児看護学実習	2	90	3年	特別支援学校 病院	子どもとその家族を理解し、小児看護を実 践するための基礎的能力を養う。
	母性 看護学	ウィメンズヘルス 看護実習	2	90	3年	病院	周産期を中心とした、女性の健康を支える 看護を実践するための基礎的能力を養う。
	精神 看護学	精神看護学実習	2	90	3年	病院 社会復帰施設	精神に障害のある対象の特徴を理解し、看 護を実践するための基礎的能力を養う。
	看護の統合と実践	統合実習Ⅰ (臨床判断能力)	2	90	3年 後期	病院	対象の状態・状況に応じた臨床判断に基 づく看護を実践するための基礎的能力を養 う。
		統合実習Ⅱ (看護の統合)	2	90	3年 後期	病院	チームの一員として協働し、臨床看護を実 践するための能力を養う。

2. 実習計画表

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年					基礎看護学実習Ⅰ					基礎看護学実習Ⅱ		
2年					地域・在宅看護論実習Ⅰ	基礎看護学実習Ⅲ					成人・高齢者看護学実習Ⅰ	
3年	成人・高齢者看護学実習Ⅱ	小児看護学実習Ⅱ	精神看護学実習Ⅱ	成人・高齢者看護学実習Ⅱ	小児看護学実習Ⅱ	精神看護学実習Ⅱ	統合実習Ⅰ	小児看護学実習Ⅱ	精神看護学実習Ⅱ	統合実習Ⅱ		
	ウイメ・在宅ヘルス看護実習	地域・在宅ヘルス看護実習	ウイメ・在宅ヘルス看護実習	ウイメ・在宅ヘルス看護実習	ウイメ・在宅ヘルス看護実習	ウイメ・在宅ヘルス看護実習	ウイメ・在宅ヘルス看護実習	ウイメ・在宅ヘルス看護実習	ウイメ・在宅ヘルス看護実習	ウイメ・在宅ヘルス看護実習		

3. 実習施設

病 院		訪問看護ステーション	
1	淡海医療センター	1	市立野洲病院訪問看護ステーション
2	近江八幡市立総合医療センター	2	公益社団法人滋賀県看護協会 在宅ケアセンターみのり
3	公立甲賀病院		
4	湖南病院	3	甲賀市社協訪問看護ステーション
5	済生会滋賀県病院	4	訪問看護ステーションなかさと
6	済生会守山市民病院	5	訪問看護なかさとCCS
7	滋賀医科大学医学部附属病院	6	訪問看護なかさとプラス
8	滋賀県立小児保健医療センター	7	訪問看護ステーションレインボウ
9	滋賀県立精神医療センター	8	訪問看護ステーションヴォーリス
10	滋賀県立総合病院	9	守山市社会福祉協議会訪問看護事業所
11	市立野洲病院	10	友仁訪問看護ステーションすずらん
12	高島市民病院	精神障害者福祉施設	
13	東近江総合医療センター	1	社会福祉法人こなんSSN 就労継続支援B型事業所 こなんSSN
14	ヴォーリス記念病院		
特別支援学校		2	社会福祉法人こなんSSN 就労継続支援B型事業所 シエスタ
1	滋賀県立草津養護学校		
2	滋賀県立野洲養護学校	看護小規模多機能型居宅介護事業所	
介護老人保健施設		1	看護小規模多機能型居宅介護サービスめぐり
1	アロフェンテ彦根	2	ナーシングホームすずらん
2	寿々はうす	3	なでしこ草津
3	ケアタウン南草津	4	白桜会複合型サービスひなた
4	ケアポート栗東	5	風蝶木の実 ケイパハウス
5	滋賀病院附属介護老人保健施設	6	笑みの家ひだまり
介護老人福祉施設		7	友愛の家 ヴォーリス
1	ゆいの里		
2	悠紀の里		

(施設名称：五十音順)

子ども園・保育園			
1	カナリヤ保育園	6	浮気保育園
2	グランマの家保育園	7	ふるたか虹のはし保育園
3	こだまふれんど保育園	8	守山保育園
4	滋賀短期大学附属 すみれ保育園	9	吉身保育園
5	大宝カナリヤ保育園	10	栗東くじら保育園
地域包括支援センター			
1	愛荘町地域包括支援センター	5	草津市松原地域包括支援センター
2	近江八幡市地域包括支援センター	6	守山市地域包括支援センター
3	大津市地域包括支援センター	7	野洲市地域包括支援センター
4	草津市新堂地域包括支援センター		

(施設名称：五十音順)

Ⅶ. 行 事 計 画

月	1 年	2 年	3 年
4	入学式 入学時研修 胸部レントゲン	始業式 胸部レントゲン	始業式 胸部レントゲン
5	学科親睦会	学科親睦会	学科親睦会
6	健康診断 特別講義（人権研修）	健康診断	健康診断
7	特別講義 大掃除	特別講義 大掃除	特別講義 2 学科学習交流会 大掃除
8	夏期休暇	夏期休暇	夏期休暇
9			
10	防災訓練	防災訓練 2 年次研修	防災訓練
11			
12	シンポジウム 個人情報保護研修 大掃除	シンポジウム 個人情報保護研修 大掃除	シンポジウム 個人情報保護研修 大掃除
1	冬期休暇	冬期休暇	冬期休暇
2			(看護師国家試験)
3	大掃除 春期休暇	大掃除 春期休暇	大掃除 卒業式

VIII. 授業科目内容

1. 基 礎 分 野

授 業 科 目		単 位	時 間
科学的思考の基盤	物理学	1	30
	論理的思考	1	30
	情報科学Ⅰ（情報リテラシー）	1	15
	情報科学Ⅱ（情報の活用）	1	30
	環境人間学	1	30
人間と生活・社会の理解	社会学	1	30
	人間関係論Ⅰ（人間関係形成の基礎）	1	30
	人間関係論Ⅱ（援助的人間関係の基礎）	1	15
	哲学対話	1	15
	教育学	1	30
	心理学	1	30
	英語	1	30
	経済学	1	15
	倫理学	1	15
小 計		14	345

分野	基礎分野	授業科目	物理学	担当講師	
開始年次	1年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務経験	
授業の目的	看護の実践場面で活用する物理の法則について学ぶ。				
授業のキーワード	力の加減 トルクの法則 重心 作用・反作用 力学 摩擦 圧力 液体の落下速度				
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 看護の実践場面で活用する物理の法則について理解できる。	(1) 身体・身体ケアに関する物理の法則	①移動動作に必要な力の加減 ②体位変換に役立つトルクの法則 ③体位変換にかかわる重心 ④看護にかかわる作用・反作用の法則 ⑤力学の適用 ・体位変換の方法とその根拠 ・褥瘡と体圧 ・仙骨に作用する力 ・杖の効用 ⑥摩擦	講義	
		(2) 検査・治療・処置に関する物理の法則	①血圧に関する原理 ②真空管採血の原理 ③点滴・輸血・経管栄養を行う際の液体の落下速度	講義	
テキスト		「完全版 ベッドサイドを科学する ―看護に生かす物理学―」 学研			
成績評価の方法		筆記試験 100%			

分野	基礎分野	授業科目	論理的思考	担当講師	
開始年次	1 年 前期	単位数 時間数	1 単位 3 0 時間	実 務 経 験	
授業の目的		論理的思考の基礎を理解し、表現する方法について学ぶ。			
授業のキーワード		論理的思考 批判的思考 文章表現 討議法			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 論理的思考と批判的思考について理解できる。	(1) 論理的思考	①論理的思考（ロジカルシンキング）とは ②論理的思考を鍛えるための方法 ・言葉を具体的ににする ・本質的な問いとは ・主張と根拠 ・自己の思考の傾向を知る ③演繹法と推論 ④帰納法と推論	講義 演習	
		(2) 批判的思考	①批判的思考（クリティカルシンキング）とは ②批判的思考の基本姿勢 ・目的は何かを常に意識する ・自他に思考の癖があることを前提に考える ・問い続ける ③批判的思考の方法 ・ルールを明確にする ・現状を分析する ・課題を見つける ・解決のためのアクションを考える	講義 演習	
	2. 論理的な文章表現について理解できる。	(1) 文章表現	①文章表現の基礎 ・具体的に伝える ・事実と意見 ・段落 ・トピックセンテンス ・引用 ・構成 ・要約 ②文章表現の応用	講義 演習	
	3. 討議法について理解できる。	(1) 討議法	①討議とは ②討議法の種類 ・K J 法 ・ブレインストーミング ③論理的な発言の仕方	講義 演習	
テキスト		「伝える伝わる文章表現」 知的シゲキ books			
成績評価の方法		筆記試験 1 0 0 %			

分野	基礎分野	授業科目	情報科学Ⅰ (情報リテラシー)	担当 講 師	
開始 年次	1 年 後期	単位数 時間数	1 単位 1 5 時間	実 務 経 験	
授業の目的		情報を安全に活用するために、情報の扱い方とセキュリティやモラルについて学ぶ。			
授業のキーワード		情報科学 ICT セキュリティ 法律 リスク社会			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 情報化社会の基礎について理解できる。	(1) 情報	①情報とは ②情報とデータ ③情報の特性	講義	
		(2) 情報化社会	①インターネット ②コミュニケーションツール ・メール ・コミュニケーションツール ・オンラインコミュニティ	講義	
		(3) 情報通信技術（ICT）の活用	①IT・ICT・IoT ②コンピューターとのつきあいかた ③コンピューターとネットワーク	講義	
	2. 情報セキュリティと情報モラルについて理解できる。	(1) 情報とセキュリティ	①リスク社会における不安と信頼 ②情報の3 要素 ③脆弱性とその対策	講義	
		(2) 情報と法律	①情報化社会の課題 ②著作権 ③個人情報保護法	講義	
テキスト		「[改訂第5 版] 基礎からわかる情報リテラシー」 技術評論社			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	基礎分野	授業科目	情報科学Ⅱ (情報の活用)	担 当 講 師	
開始 年次	2 年 後期	単位数 時間数	1 単位 3 0 時間	実 務 経 験	
授業の目的		データや情報を活用する方法について学ぶ。			
授業のキーワード		調査 統計 数値分析 ソフトウェアの活用			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 統計学を学ぶ意義、社会調査の必要性を理解できる。	(1) 統計学とは	①社会調査の必要性	講義	
		(2) 現代社会における情報科学	①わたしたちの現代社会 ②数字で社会を捉える	講義	
		(3) 数値分析	①度数分布表 ②分布の特性 ③クロス集計と属性相関 ④散布図と相関係数 ⑤多重クロス表と偏相関係数		
	2. 情報処理について理解できる。	(1) コンピューターの基礎知識とマナー	①コンピューターとのつきあいかた	講義 演習	
		(2) ソフトウェアの活用	①Word 機能の活用 ②Excel 機能の活用 ③PowerPoint 機能の活用 ④クラウドの活用	講義 演習	
テキスト		「[改訂第4版] 基礎からわかる情報リテラシー」 技術評論社 「数学嫌いのための社会統計学 [第3版]」 法律文化社			
成績評価の方法		筆記試験 1 0 0 %			

分野	基礎分野	授業科目	環境人間学	担当講師		
開始年次	1年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務経験		
授業の目的		人々を取り巻く環境について理解し、環境保全や環境問題について学ぶ。				
授業のキーワード		地球環境	滋賀の環境	環境問題	環境保全	
時間	目標	主題	内容	指導方法		
	1. 人々を取り巻く環境について理解できる。	(1)環境	①環境とは ②地球環境 ③滋賀の環境	講義		
		(2)環境と人間	①環境と人間の相互作用	講義		
	2. 環境問題について理解できる。	(1)環境問題の歴史	①高度経済成長と大量消費 ②公害（大気 水 音 化学物質）	講義		
		(2)現代社会が抱える環境問題	①地球温暖化 ②気候変動 ③オゾン層破壊 ④砂漠化 ⑤大気・水・土壌の汚染 ⑥海洋ゴミ問題 ⑦放射性物質の廃棄問題 ⑧自然災害	講義		
	3. 環境保全と環境問題克服のための取り組みについて理解できる。	(1)環境保全と環境問題克服のための取り組み	①世界の取り組み ②日本の取り組み ③滋賀県の取り組み	講義		
	テキスト		指定なし			
	成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	基礎分野	授業科目	社会学	担当講師	
開始年次	1 年 前期	単位数 時間数	1 単位 3 0 時間	実 務 経 験	
授業の目的		人々を取り巻く社会を多方面から捉え、多様な文化について学ぶ。			
授業のキーワード		人間 社会 地域 文化 生活			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 人々を取り巻く社会について理解できる。	(1) 個人	①自己アイデンティティ ②ジェンダーアイデンティティ ③社会化	講義	
		(2) 家族	①家族とは ②家族の機能と変化	講義	
		(3) コミュニティ	①近隣集団 ②地域コミュニティ （都道府県も含む） ③職場 ④ネットワーク・コミュニティ	講義	
		(4) ボランティア アソシエーション	①ボランティアアソシエーションとは ②ボランティア・グループ ③セルフヘルプ・グループ	講義	
		(5) 国家と様々な集団との関係	①国家と個人 ②国家と家族 ③国家とコミュニティ	講義	
	2. 多様な文化について理解できる。	(1) 多様な文化	①文化とは ②文化の形成 ③多様な文化	講義	
テキスト		指定なし			
成績評価の方法		筆記試験 1 0 0 %			

分野	基礎分野	授業科目	人間関係論Ⅰ (人間関係形成の基礎)	担 当 講 師		
開始 年次	1 年 前期	単位数 時間数	1 単位 3 0 時間	実 務 経 験		
授業の目的		人間関係の基礎を理解し、人間関係成立の理論と技法について学ぶ。				
授業のキーワード		人間関係 自己認知 他者認知 コミュニケーション コーチング アサーティブコミュニケーション				
時間	目標	主題	内容	指導方法		
	1. 人間関係の基礎について理解できる。	(1) 人間関係における自己と他者	①人間関係とは ②自己認知 ③対人認知	講義		
		(2) 対人関係と役割	①対人関係の成立 ②対人関係の維持と崩壊 ③対人葛藤と対処 ④社会的役割	講義		
		(3) 態度と対人行動	①態度と態度変化 ②説得的コミュニケーション ③攻撃 ④援助	講義		
		(4) 集団と個人	①集団の特性 ②集団での課題遂行 ③集団での問題解決と意思決定 ④リーダーシップ	講義		
	2. 人間関係成立の理論と技法について理解できる。	(1) コミュニケーション	①コミュニケーションとは ②対人コミュニケーション ③マスコミュニケーション ④ICTの発達とコミュニケーション	講義 演習		
		(2) コーチング	①コーチングの理論とスキル ②看護への応用	講義 演習		
		(3) アサーティブコミュニケーション	①アサーションの理論とスキル ②看護への応用	講義 演習		
テキスト		「系統看護学講座 基礎分野 人間関係論」 医学書院				
成績評価の方法		筆記試験100%				

分野	基礎分野	授業科目	人間関係論Ⅱ (援助的人間関係の基礎)	担当 講師	
開始 年次	2年 後期	単位数 時間数	1 単位 1 5 時間	実 務 経 験	
授業の目的		カウンセリングの基礎を理解し、援助的コミュニケーションについて学ぶ。			
授業のキーワード		カウンセリング 援助的コミュニケーション 傾聴 マイクロカウンセリング			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. カウンセリングの基礎について理解できる。	(1) カウンセリングの基礎	①カウンセリング意義 ②カウンセリングの理論 ③カウンセリングの基本的態度	講義 演習	
	2. 援助的コミュニケーションについて理解できる。	(1) 援助的コミュニケーション	①相手の話をきくこと ②技法（マイクロカウンセリング）	講義 演習	
テキスト		「系統看護学講座 基礎分野 人間関係論」 医学書院			
成績評価の方法		筆記試験 1 0 0 %			

分野	基礎分野	授業科目	哲学対話	担当講師	
開始年次	3年 前期	単位数 時間数	1 単位 1 5 時間	実 務 経 験	
授業の目的		哲学対話の概要を理解し、哲学対話を通して他者理解や自己の思考を深化させる。			
授業のキーワード		哲学対話 他者理解 思考の深化			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 哲学対話の概要について理解できる。	(1) 哲学対話の概要	①哲学対話とは ②会話、討議、対話の違い ③対話の意義	講義	
		(2) 哲学対話の方法	①対話のルール ②対話の進め方	講義	
	2. 哲学対話の実践を通して、他者理解や自己の思考を深化できる。	(1) 哲学対話の実践	①問い（テーマ）の設定 ②言葉の意味の明確化 ③結論と論拠の理解 ④対話実践を通じた他者の思考と、自己の思考の深化	講義 演習	
テキスト					
成績評価の方法		筆記試験 1 0 0 %			

分野	基礎分野	授業科目	教育学	担当講師	
開始年次	1 年 前期	単位数 時間数	1 単位 3 0 時間	実務 経 験	
授業の目的		教育の意義を理解し、教育の現状について学ぶ。			
授業のキーワード		人間 教育 生涯学習			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 教育の意義が理解できる。	(1) 教育の意義	①教育とは ②人間と教育 ③社会と教育 ④教育の必要性 ⑤教育の可能性	講義	
		(2) 人間の発達と教育	①教育の目的 ②家庭、学校、社会における教育活動 ③ペタゴジーとアンドラゴジー	講義	
	2. 教育の現状と課題が理解できる。	(1) 子どもの教育と社会	①子ども観、教育観の変遷 ②子どもを取り巻く家庭や社会の現状 ③公教育の現状 ・道徳教育 ④学校・家庭・地域の連携	講義	
		(2) 現代の教育における課題	①貧困 ②虐待 ③いじめ ④不登校・引きこもり	講義	
		(3) 生涯学習について	①生涯学習と社会教育 ②生涯学習・教育の新展開	講義	
テキスト		「改訂 未来に生きる教育学」 あいり出版			
成績評価の方法		筆記試験 1 0 0 %			

分野	基礎分野	授業科目	心理学	担当講師		
開始年次	1年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務経験		
授業の目的		人間の心のしくみや心の適応について学ぶ。				
授業のキーワード		人間 心 知覚 感覚 認知 脳 記憶 知能 学習 発達				
時間	目標	主題	内容	指導方法		
	1. 心理学とは何か理解できる。	(1)心理学の定義・意義	①心理学の対象、定義、考え方 ②心理学の領域 ③心理学の方法	講義		
	2. 心のしくみについて理解できる。	(1)感覚・知覚の心理	①感覚のしくみとはたらき ②知覚のしくみとはたらき ③脳とこころ	講義 演習		
		(2)記憶の心理	①記憶のメカニズム ②感覚・短期記憶と作業記憶 ③長期記憶と忘却	講義		
		(3)思考・言語の心理	①思考とは ②推論 ③言語とコミュニケーション	講義		
		(4)学習の心理	①学習とは ②古典的条件づけ ③オペラント条件付けと学習の理論 ④社会的学習と効果的な学習方法	講義		
	3. 心と適応について理解できる。	(1)知能の心理	①知能とは ②知能の発達と変化 ③知能検査	講義 演習		
		(2)感情・情緒・情操の心理	①感情の心理 ②情緒の心理 ③情操の心理	講義		
		(3)適応の心理	①人と環境 ②適応・不適応 ③適応の規制	講義		
		(4)性格の心理	①性格の形成 性格の理解、性格検査、適性検査	講義		
		(5)集団の心理	①集団の形成と機能 個人と集団、集団の特徴とはたらき ②集合行動	講義		
	4. 人間各期の発達段階の特徴とその心理について理解できる。	(1)発達の心理	①発達の原理 ②発達段階の特徴	講義		
		(2)医療と心理学	①心の病と心理療法	講義		
	テキスト		「心理学 【カレッジ版】」 医学書院			
	成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	基礎分野	授業科目	経済学	担当講師	
開始年次	3年 前期	単位数 時間数	1 単位 1 5 時間	実 務 経 験	
授業の目的		社会の動きやしくみを経済の視点から学ぶ。			
授業のキーワード		日本経済の現状 経済財政政策 金融政策 日本経済に関する問題			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 経済学について理解できる。	(1) 経済学とは	①経済学とは ②経済学を学ぶ意義	講義	
	2. 日本経済の現状としくみについて理解できる。	(1) 暮らしと経済	①日本の経済状況 ②日本の家計消費 ③年金の制度	講義	
		(2) 経済財政政策	①政府の役割 ②日本における財政の現状 ③経済財政政策の現状 ④生活に関わる税制	講義	
		(3) 金融政策	①日本の金融システム ②日本銀行の役割 ③金融政策の現状	講義	
	3. 日本経済が直面する諸問題について理解できる。	(1) 日本経済が直面する諸問題	①少子高齢化による生産労働人口の減少 ②景気低迷による格差問題 ③少子高齢化による社会保障制度の危機（年金・医療・介護）	講義	
テキスト		指定なし			
成績評価の方法		筆記試験 1 0 0 %			

分野	基礎分野	授業科目	倫理学	担当講師	
開始年次	1年 前期	単位数 時間数	1単位 15時間	実務経験	
授業の目的		倫理学の基礎を理解し、多様な価値観があることを学ぶ。			
授業のキーワード		倫理 メタ倫理学 規範倫理学 応用倫理学 生命倫理 価値観			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 倫理学の基礎を理解できる。	(1) 倫理学とは	①倫理学とは ②道徳と倫理 ③倫理学を学ぶ意義	講義	
		(2) 倫理学の分類	①メタ倫理学 ②規範倫理学 ・ 功利主義 ・ 義務論 ・ 徳倫理学 ③応用倫理学 ・ 生命倫理	講義	
	2. 多様な価値観について理解することができる	(1) 多様な価値観	①人による価値観の相違 ②状況による価値観の変化 ③「正しい」と判断する根拠	講義 演習	
	3. 生命倫理に関わる現代の課題について考えることができる	(1) 生命倫理に関わる現代の課題	①尊厳死 ②安楽死 ③出生前診断	講義 演習	
テキスト		指定なし			
成績評価の方法		筆記試験100%			

2. 専 門 基 礎 分 野

授 業 科 目		単 位	時 間
人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ（細胞 骨格・筋 皮膚・免疫）	1	3 0
	解剖生理学Ⅱ（呼吸 血液 循環）	1	3 0
	解剖生理学Ⅲ（消化・吸収 腎・泌尿器 生殖）	1	3 0
	解剖生理学Ⅳ（神経 内分泌 感覚）	1	3 0
	生化学	1	3 0
疾病の成り立ちと回復の促進	栄養学	1	1 5
	臨床薬理学	1	3 0
	臨床検査	1	3 0
	病理学	1	1 5
	病態生理学	1	1 5
	疾病・治療論Ⅰ （筋・骨格器系疾患 消化器疾患）	1	3 0
	疾病・治療論Ⅱ（呼吸器疾患 循環器疾患）	1	3 0
	疾病・治療論Ⅲ（脳神経疾患 内分泌疾患）	1	3 0
	疾病・治療論Ⅳ （血液・造血器疾患 女性生殖器疾患）	1	3 0
	疾病・治療論Ⅴ （腎・泌尿器疾患 アレルギー・免疫疾患）	1	3 0
	疾病・治療論Ⅵ（感覚器疾患）	1	1 5
	小 計	1 6	4 2 0
健康支援と 社会保障制度	公衆衛生学	1	1 5
	健康支援論	1	1 5
	リハビリテーション論	1	1 5
	社会保障制度	1	3 0
	総合医療論	1	1 5
	関係法規	1	1 5
	小 計	6	1 0 5
小 計		2 2	5 2 5

分野	専門基礎分野	授業科目	解剖生理学Ⅰ (細胞 骨格・筋 皮膚・免疫)	担当講師	
開始年次	1年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務経験	
授業の目的		1. 解剖生理学の基礎について学ぶ。 2. 骨格・筋の構造と機能について学ぶ。 3. 身体機能の防御と適応について学ぶ。			
授業のキーワード		細胞 骨格 筋 皮膚 免疫			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 解剖生理学のための基礎知識が理解できる。	(1)解剖生理学のための基礎知識	①形からみた人体 ②素材からみた人体 ③機能からみた人体	講義	
	2. 骨格・筋の構造と機能が理解できる。	(1)骨格・筋	①骨格とはどのようなものか ②骨の連結 ③骨格筋 ④体幹の骨格と筋 ⑤上肢の骨格と筋 ⑥下肢の骨格と筋 ⑦頭頸部の骨格と筋 ⑧筋の収縮	講義	
	3. 身体機能の防御と適応が理解できる。	(1)身体機能の防御と適応	①皮膚の構造と機能 ②生体の防御機構 ③体温とその調節	講義	
テキスト		「系統看護学講座 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学」 医学書院			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	専門基礎分野	授業科目	解剖生理学Ⅱ (呼吸 血液 循環)		担当 講 師	
開始 年次	1 年 前期	単位数 時間数	1 単位 3 0 時間		実 務 経 験	
授業の目的		1. 呼吸と血液のはたらきについて学ぶ。 2. 血液の循環とその調節について学ぶ。				
授業のキーワード		呼吸 血液 循環				
時間	目標	主題	内容			指導方法
	1. 呼吸と血液のはたらきが理解できる。	(1)呼吸と血液のはたらき	①呼吸器の構造 ②呼吸 ③血液			講義
	2. 血液の循環とその調節が理解できる。	(1) 血液の循環とその調節	①循環器系の構成 ②心臓の構造 ③心臓の拍出機能 ④末梢循環系の構造 ⑤血液の循環の調節 ⑥リンパとリンパ管			講義
テキスト		「系統看護学講座 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学」 医学書院				
成績評価の方法		筆記試験 1 0 0 %				

分野	専門基礎分野	授業科目	解剖生理学Ⅲ (消化・吸収 腎・泌尿器 生殖)	担当 講 師	
開始 年次	1 年 前期	単位数 時間数	1 単位 3 0 時間	実 務 経 験	
授業の目的		1. 栄養の消化と吸収について学ぶ。 2. 体液の調節と尿の生成について学ぶ。 3. 生殖・発生と老化のしくみについて学ぶ。			
授業のキーワード		消化 吸収 体液の調節 尿の生成 生殖			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 栄養の消化と吸収が理解できる。	(1) 栄養の消化と吸収	①口・咽頭・食道の構造と機能 ②腹部消化管の構造と機能 ③脾臓・肝臓・胆嚢の構造と機能 ④腹膜	講義	
	2. 体液の調節と尿の生成が理解できる。	(1) 体液の調節と尿の生成	①腎臓 ②排尿路 ③体液の調節	講義	
	3. 生殖・発生と老化のしくみが理解できる。	(1) 生殖・発生と老化のしくみ	①男性生殖器 ②女性生殖器 ③受精と胎児の発生 ④成長と老化	講義	
テキスト		「系統看護学講座 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学」 医学書院			
成績評価の方法		筆記試験 1 0 0 %			

分野	専門基礎分野	授業科目	解剖生理学Ⅳ (神経 内分泌 感覚)	担当 講 師	
開始 年次	1 年 前期	単位数 時間数	1 単位 3 0 時間	実 務 経 験	
授業の目的		1. 内臓機能の調節について学ぶ。 2. 情報の受容と処理について学ぶ。			
授業のキーワード		自律神経 内分泌 中枢神経 末梢神経 感覚			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 内臓機能の調節が理解できる。	(1) 内臓機能の調節	①自律神経による調節 ②内分泌系による調節 ③全身の内分泌腺と内分泌細胞 ④ホルモン分泌の調節 ⑤ホルモンによる調節の実際	講義	
	2. 情報の受容と処理が理解できる。	(1) 情報の受容と処理	①神経系の構造と機能 ②脊髄と脳 ③脊髄神経と脳神経 ④脳の高次機能 ⑤運動機能と下行伝導路 ⑥感覚機能と上行伝導路 ⑦眼の構造と視覚 ⑧耳の構造と聴覚・平衡覚 ⑨嗅覚と味覚 ⑩痛み（疼痛）	講義	
テキスト		「系統看護学講座 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学」 医学書院			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	専門基礎分野	授業科目	生化学	担当講師		
開始年次	1年 前期	単位数 時間数	1 単位 3 0 時間	実務経験		
授業の目的		生体を構成する物質の代謝と遺伝のメカニズムについて学ぶ。				
授業のキーワード		代謝	糖質	脂質	タンパク質	
			遺伝子	DNA	RNA	
時間	目標	主題	内容		指導方法	
	1. 生体を構成する物質とその代謝について理解できる。	(1)代謝の基礎と酵素・補酵素	①代謝とは ②酵素 ②補因子 ③ビタミン ④酵素の反応速度 ⑤酵素の阻害		講義	
		(2)糖質の構造と機能	①糖質とは ②単糖の構造と機能 ③二糖の構造と機能 ④多糖の構造と機能		講義	
		(3)糖質代謝	①糖質の消化と吸収 ②グルコースの分解 ③グリコーゲン代謝		講義	
		(4)脂質の構造と機能	①脂質とは ②脂質の種類 ③リポタンパク質		講義	
		(5)脂質代謝	①脂質の消化と吸収 ②脂肪酸の分解 ③脂質の合成		講義	
		(6)タンパク質の構造と機能	①タンパク質とは ②アミノ酸 ③タンパク質の構造		講義	
		(7)タンパク質代謝	①タンパク質の消化と吸収 ②アミノ酸の分解 ③非必須アミノ酸の合成		講義	
	2. 遺伝子と遺伝のメカニズムについて理解できる。	(1)遺伝子と核酸	①遺伝子とは ②核酸の構造と機能 ③核酸の代謝		講義	
		(2)遺伝子の複製・修復・組換え	①DNAの複製 ②DNAの修復 ③DNAの組換え		講義	
		(3)転写	①転写とは ②転写の開始と終結 ③RNAのプロセッシング		講義	
		(4)翻訳	④遺伝子の発現調節 ①翻訳のメカニズム ②翻訳後修飾		講義	
		テキスト		「系統看護学講座 人体の構造と機能〔2〕生化学」 医学書院		
		成績評価の方法		筆記試験100%		

分野	専門基礎分野	授業科目	栄養学	担当講師	
開始年次	1年 後期	単位数 時間数	1単位 15時間	実務経験	
授業の目的		栄養の意義を理解し、臨床栄養について学ぶ。			
授業のキーワード		栄養素	食事摂取基準	栄養状態の評価	臨床栄養
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 栄養の意義を理解できる。	(1) 栄養の意義 (2) 栄養素 (3) 食事摂取基準と食品成分 (4) 栄養状態の評価 (5) ライフステージと栄養	① 栄養の意義 ① 栄養素の種類とはたらき ・糖質 ・タンパク質 ・脂質 ・ビタミン ・ミネラル ① 食事摂取基準とエネルギー必要量 ② 食品に含まれる栄養素 ① 身体計測による判定 ② わが国の栄養の現状と栄養改善 ① 小児期 ② 成人期 ③ 高齢期	講義	
	2. 臨床栄養について理解できる。	(1) 臨床栄養	① 臨床栄養の意義 ② チームにおける栄養ケア ・栄養サポートチーム (NST) ・栄養ケア・マネジメント (NCM) ③ 栄養補給法 ④ 疾患別食事療法 ・循環器疾患 ・消化器疾患 ・栄養・代謝疾患 ・腎臓疾患 ・血液疾患 ⑤ 症状別食事療法 ・食物アレルギー ・摂食・嚥下障害	講義	
テキスト		「系統看護学講座 人体の構造と機能 [3] 栄養学」 医学書院			
成績評価の方法		筆記試験 100%			

分野	専門基礎分野	授業科目	臨床薬理学	担当講師	
開始年次	1 年 後期	単位数 時間数	1 単位 3 0 時間	実 務 経 験	
授業の目的		薬物の特徴と作用機序、人体への影響について学ぶ。			
授業のキーワード		医薬品 薬理作用 体内動態 治療薬 病棟薬剤師			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 薬物の特徴と作用機序、人体への影響について理解できる。	(1) 医薬品	①医薬品とは ②医薬品の分類 ③医薬品に関する法律 ④薬理作用の原理 ⑤薬理作用に影響を及ぼす要因 ⑥薬物の有害作用 ⑦薬物の相互作用 ⑧医薬品使用時の注意 ⑨医薬品添付文書 ⑩処方から投与まで	講義	
		(2) 各疾患における治療薬の薬理作用	①主な生活習慣病に使用する薬 ・ 高血圧 ・ 糖尿病 ・ 脂質異常症 ・ 動脈硬化 ②生活習慣病に随伴する循環器障害に使用する薬 ③生活習慣病に随伴する脳血管障害（急性期）に使用する薬 ④がん・痛みに使用する薬 ⑤脳・中枢神経系疾患で使用する薬 ⑥感染症に使用する薬 ⑦救命救急時に使用する薬 ⑧アレルギー・免疫不全状態の患者に使用する薬 ⑨消化器系疾患に使用する薬	講義	
	2. 病棟での薬剤師の役割と業務ついて理解できる。	(1) 病棟での薬剤師の役割と業務	①病棟での薬剤師の役割 ②病棟での薬剤師業務 ③薬剤師と看護師の連携	講義	
テキスト		「ナーシンググラフィカ 疾病の成り立ちと回復の促進② 臨床薬理学」 メディカ出版			
成績評価の方法		筆記試験 1 0 0 %			

分野	専門基礎分野	授業科目	臨床検査	担当講師	
開始年次	1年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務経験	
授業の目的		臨床検査、病原菌の特徴と感染症について学ぶ。			
授業のキーワード		臨床検査 病原菌 感染症			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 臨床検査について理解できる。	(1) 臨床検査の基礎	①診療における検査の役割 ・健康な人体と臨床検査 ・診療における臨床検査 ・臨床検査の限界 ・臨床検査の負担と費用対効果 ②臨床検査の種類 ・検体検査 ・生体検査 ③臨床検査の場面と目的 ④臨床検査結果の評価	講義	
		(2) 検体検査の種類	①一般検査 ②血液学的検査 ③化学検査 ④免疫・血清学的検査 ⑤内分泌的検査 ⑥微生物学的検査 ⑦病理学的検査	講義	
	2. 病原菌の特徴と感染症について理解できる。	(1) 病原菌の特徴と感染症	①人と病原体の関わり ②感染経路 ③ウイルスとウイルス感染症 ④細菌と細菌感染症 ⑤真菌・医動物による感染症	講義	
テキスト		「系統看護学講座 臨床検査」 医学書院			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	専門基礎分野	授業科目	病理学	担当講師		
開始年次	1年 前期	単位数 時間数	1単位 15時間	実務経験		
授業の目的		病理学の概念と疾病の成り立ちについて学ぶ。				
授業のキーワード		循環障害 先天異常 代謝障害 炎症 免疫 腫瘍				
時間	目標	主題	内容	指導方法		
	1. 病理学の概念が理解できる。	(1) 病理学の概念	①病理学とは ②病因論 ③疾病の分類	講義		
	2. 細胞・組織の変性の成り立ちが理解できる。	(1) 細胞・組織の障害と修復	①細胞の損傷と修復 萎縮、肥大、過形成、化生 ②組織の修復と創傷治癒	講義		
		(2) 細胞・組織の死	①細胞・組織の死 ネクロシス アポトーシス 細胞の老化	講義		
	3. 疾病の成り立ちを理解できる。	(1) 循環障害	①循環血液量の障害 腹水・胸水、充血、うっ血、 虚血、出血 ②閉塞性の循環障害 血栓症、塞栓症、梗塞	講義		
		(2) 先天異常・遺伝子の異常	①先天異常の分類 遺伝障害・胎児障害 ②染色体異常と遺伝性疾患 ③奇形と胎児障害 ④先天異常の診断・治療	講義		
		(3) 代謝障害	①脂質代謝障害 ②タンパク質代謝障害 ③糖質代謝障害 ④その他の代謝障害	講義		
		(4) 炎症と免疫	①炎症とその分類 ②免疫と免疫不全 ③アレルギーと自己免疫疾患	講義		
		(5) 腫瘍	①腫瘍の定義と分類 ②悪性腫瘍の広がり と影響 ③腫瘍の発生病理 ④腫瘍の診断と治療	講義		
	テキスト		「系統看護学講座 疾病のなりたちと回復の促進 [1] 病理学」医学書院			
	成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	専門基礎分野	授業科目	病態生理学		担当講師	
開始年次	1 年 後期	単位数 時間数	1 単位 1 5 時間		実 務 経 験	
授業の目的		各症状の定義、誘因・原因ならびにメカニズムについて学ぶ。				
授業のキーワード		貧血 浮腫 悪心・嘔吐 脱水 発熱 ショック 意識障害				
時間	目標	主題	内容			指導方法
	1. 各症状の定義、誘因・原因ならびにメカニズムについて理解できる。	(1) 貧血	①貧血の定義 ②貧血の分類・原因・誘因ならびにメカニズムと特徴 ③貧血の随伴症状と二次的問題 ④貧血に対する主な診察と検査			講義
		(2) 浮腫	①浮腫の定義 ②浮腫の分類・原因・誘因ならびにメカニズム ③浮腫の随伴症状と二次的問題 ④浮腫に対する主な診察と検査			講義
		(3) 悪心・嘔吐	①悪心・嘔吐の定義 ②悪心・嘔吐のメカニズム ③悪心嘔吐の随伴症状 ④嘔吐の二次的問題 ⑤嘔吐に対する主な診察と検査			講義
		(4) 脱水	①脱水の定義 ②脱水の分類・原因・誘因ならびにメカニズムと特徴 ③脱水の程度と随伴症状 ④脱水の二次的問題 ⑤脱水に対する診察と検査			講義
		(5) 発熱	①発熱・高体温の定義 ②発熱・高体温の原因・誘因・ならびにメカニズムと特徴 ③発熱と随伴症状 ④発熱の二次的問題 ⑤発熱に対する主な診察と検査			講義
		(6) ショック	①ショックの定義 ②ショックの分類 ③ショックの原因・誘因ならびにメカニズムと特徴 ④ショックの経過に伴う徴候 ⑤ショックの二次的問題 ⑥ショックに対する主な診察と検査 ⑦ショックに対する主な治療			講義
		(7) 意識障害	①意識障害の定義 ②意識障害のレベルの分類 ③意識障害の分類・原因・誘因ならびにメカニズムと特徴 ④意識障害の随伴症状 ⑤意識障害に対する主な診察と検査			講義
テキスト		「看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント」 学研				
成績評価の方法		筆記試験 1 0 0 %				

分野	専門基礎分野	授業科目	疾病・治療論Ⅰ (筋・骨格器系疾患 消化器疾患)	担 当 講 師	
開始年次	1 年 後期	単位数 時間数	1 単位 3 0 時間	実 務 経 験	
授業の目的		1. 筋・骨格系疾患の病態生理、検査、治療について学ぶ。 2. 消化器疾患の病態生理、検査、治療について学ぶ。			
授業のキーワード		筋・骨関節疾患 消化器疾患 病態生理 検査 治療			
時間	目標		主題	内容	指導方法
	1. 筋・骨格系疾患の病態生理、検査、治療について理解できる。		(1)筋・骨格系疾患の病態生理と治療	①病態生理と治療（外科治療を含む） ・骨折、脱臼、神経の損傷 ・筋・腱・靱帯の損傷 ・先天性疾患 ・骨・関節の炎症性疾患 ・骨腫瘍 ・椎間板ヘルニア ・脊髄損傷 ・上肢、下肢の疾患 ・ロコモティブシンドローム ・運動器不安定症 ②主な検査 ・画像検査 ・関節造影、脊髄造影検査 ・超音波検査 ・関節鏡 ・骨密度検査 ・関節液検査	講義
	2. 消化器疾患の病態生理、検査、治療について理解できる。		(1)消化器疾患の病態生理と治療	①病態生理と治療（外科治療を含む） ・食道の疾患（食道癌） ・胃・十二指腸潰瘍 ・胃癌 ・腸および腹膜疾患 潰瘍性大腸炎、クローン病 腹膜炎 ・ヘルニア ・腸管ポリープ ・結腸癌・直腸癌 ・肛門疾患 ・肝臓・胆嚢・胆管の疾患 肝炎、肝癌、肝硬変症 門脈圧亢進症、胆石症 ・膵臓の疾患 膵炎、膵癌 ②主な検査 ・肝機能検査 ・内視鏡検査 ・腹部超音波検査 ・肝生検 ・画像検査	講義
テキスト		「系統看護学講座 成人看護学〔10〕運動器」 医学書院 「系統看護学講座 成人看護学〔5〕消化器」 医学書院			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	専門基礎分野	授業科目	疾病・治療論Ⅱ (呼吸器疾患 循環器疾患)	担当 講 師	
開始 年次	1 年 後期	単位数 時間数	1 単位 3 0 時間	実 務 経 験	
授業の目的		1. 呼吸器疾患の病態生理、検査、治療について学ぶ。 2. 循環器疾患の病態生理、検査、治療について学ぶ。			
授業のキーワード		呼吸器疾患 循環器疾患 病態生理 検査 治療			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 呼吸器疾患の病態生理、検査、治療について理解できる。	(1)呼吸器疾患の病態生理と治療	①病態生理と治療（外科治療を含む） ・気道の疾患 気管支喘息、気管支拡張症 慢性閉塞性肺疾患 ・肺の疾患 肺結核、肺気腫、肺線維症 肺炎、間質性肺疾患 ・肺腫瘍 ・胸膜・縦隔・横隔膜の疾患 ・胸部外傷 ②主な検査 ・画像検査 ・内視鏡検査 ・呼吸機能検査 ・血液検査 ・喀痰検査 ・生検	講義	
	2. 循環器疾患の病態生理、検査、治療について理解できる。	(1)循環器疾患の病態生理と治療	①病態生理と治療（外科治療含む） ・心不全 ・不整脈 ・血圧の異常（高血圧） ・虚血性心疾患 狭心症 心筋梗塞 ・心臓弁膜疾患 ・心筋疾患（心筋症） ・血管の疾患 ②主な検査 ・画像検査 ・心電図 ・心臓カテーテル検査 ・心臓超音波検査	講義	
テキスト		「系統看護学講座 成人看護学〔2〕呼吸器」 医学書院 「系統看護学講座 成人看護学〔3〕循環器」 医学書院			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	専門基礎分野	授業科目	疾病・治療論Ⅲ (脳神経疾患 内分泌疾患)	担当 講 師	
開始 年次	2年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実 務 経 験	
授業の目的		1. 脳神経疾患の病態生理、検査、治療について学ぶ。 2. 内分泌・代謝系疾患の病態生理、検査、治療について学ぶ。			
授業のキーワード		脳神経疾患 内分泌・代謝系疾患 病態生理 検査 治療			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 脳神経疾患の病態生理、検査、治療について理解できる。	(1)脳神経疾患の病態生理と治療	①病態生理と治療（外科治療を含む） ・脳血管障害 ・脳腫瘍 ・パーキンソン病 ・脊髄小脳変性症 ・多発性硬化症 ・神経・筋疾患 重症筋無力症 進行性筋ジストロフィー 筋萎縮性側索硬化症 ②主な検査 ・画像検査 ・髄液検査 ・脳波 ・筋電図	講義	
	2. 内分泌・代謝系疾患の病態生理、検査、治療について理解できる。	(1)内分泌・代謝系疾患の病態生理と治療	①病態生理と治療 ・下垂体の疾患 先端肥大症（巨人症） 下垂体機能低下症 下垂体性小人症、尿崩症 ・甲状腺機能亢進症 ・クッシング症候群 ・糖尿病 ・脂質異常症 ・蛋白質代謝異常 ②主な検査 ・血液検査（ホルモン血中濃度） ・尿検査 ・負荷試験	講義	
テキスト		「系統看護学講座 成人看護学〔7〕脳・神経」 医学書院 「系統看護学講座 成人看護学〔6〕内分泌・代謝」 医学書院			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	専門基礎分野	授業科目	疾病・治療論Ⅳ (血液・造血器疾患 女性生殖器疾患)	担当講師	
開始年次	2年 前期	単位数 時間数	1 単位 30 時間	実務 経験	
授業の目的		1. 血液・造血器疾患の病態生理、検査、治療について学ぶ。 2. 女性生殖器疾患の病態生理、検査、治療について学ぶ。			
授業のキーワード		血液・造血器疾患 女性生殖器疾患 病態生理 検査 治療			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 血液・造血器疾患の病態生理、検査、治療について理解できる。	(1) 血液・造血器疾患の病態生理と治療	①病態生理と治療 ・貧血 ・白血病 ・悪性リンパ腫 ・多発性骨髄腫 ・播種性血管内凝固症候群 ②主な検査 ・末梢血検査 ・骨髄検査 ・リンパ節生検	講義	
	2. 女性生殖器疾患の病態生理、検査、治療について理解できる。	(1) 女性生殖器疾患の病態生理と治療	①病態生理と治療(外科治療含む) ・性分化疾患 ・子宮がん ・子宮内膜症 ・月経異常 ・不妊症 ・性感染症 ・膣炎 ・子宮筋腫 ・卵巣腫瘍 ・更年期障害 ・不育症 ・乳がん ②主な検査 ・画像検査 ・内視鏡検査 ・頸管粘液検査 ・細胞診 ・ホルモン測定	講義	
テキスト		「系統看護学講座 成人看護学〔4〕血液・造血器」 医学書院 「系統看護学講座 成人看護学〔9〕女性生殖器」 医学書院			
成績評価の方法		筆記試験 100%			

分野	専門基礎分野	授業科目	疾病・治療論Ⅴ (腎・泌尿器疾患 アレルギー・免疫疾患)	担当講師	
開始年次	2年 後期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務 経験	
授業の目的		1. 腎・泌尿器疾患の病態生理、検査、治療について学ぶ。 2. アレルギー疾患・免疫疾患の病態生理、検査、治療について学ぶ。			
授業のキーワード		腎泌尿器疾患 アレルギー疾患・免疫疾患 病態生理 検査 治療			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 腎・泌尿器疾患の病態生理、検査、治療について理解できる。	(1) 腎・泌尿器疾患の病態生理と治療	①病態生理と治療(外科治療を含む) ・腎不全 急性腎不全、慢性腎不全 ・糸球体腎炎 ・ネフローゼ症候群 ・尿路感染症 ・結石症 ・尿路の腫瘍 腎実質腫瘍 腎盂及び尿管腫瘍 膀胱腫瘍、尿道腫瘍 ・泌尿器の疾患 先天異常 前立腺肥大、前立腺癌 ②主な検査 ・尿検査 ・腎機能検査 ・造影検査 ・内視鏡検査	講義	
	2. アレルギー疾患・免疫疾患の病態生理、検査、治療について理解できる。	(1) アレルギー・免疫疾患の病態生理と治療	①病態生理と治療 ・アレルギー反応とその機序 ・アレルギー疾患 ・関節リウマチ ・全身性エリテマトーデス ・強皮症 ・皮膚筋炎・多発性筋炎 ・血管炎症候群 ・膠原病類縁疾患 ②主な検査 ・血液検査 ・免疫学的検査 ・画像検査	講義	
テキスト		「系統看護学講座 成人看護学〔8〕 腎・泌尿器」 医学書院 「系統看護学講座 成人看護学〔11〕 アレルギー 膠原病 感染症」 医学書院			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	専門基礎分野	授業科目	疾病・治療論Ⅵ (感覚器疾患)		担当 講師	
開始 年次	2年 後期	単位数 時間数	1 単位 1 5 時間		実 務 経 験	
授業の目的		感覚器系疾患の病態生理、検査、治療について学ぶ。				
授業のキーワード		耳鼻咽喉疾患	眼疾患	皮膚疾患	病態生理	検査 治療
時間	目標		主題	内容		指導方法
	1. 耳鼻咽喉疾患の病態生理、検査、治療について理解できる。		(1) 耳鼻咽喉疾患の病態生理と治療	①病態生理と治療(外科治療を含む) ・中耳炎、難聴、メニエール病 ・副鼻腔炎、鼻炎 ・上顎癌 ・喉頭癌 ・口唇裂、口蓋裂 ②主な検査 ・聴力検査 ・平衡機能検査 ・内視鏡検査 ・画像検査		講義
	2. 眼疾患の病態、生理、検査、治療について理解できる。		(1) 眼疾患の病態生理と治療	①病態生理と治療(外科治療を含む) ・結膜炎、屈折異常 ・白内障、緑内障、網膜剥離 ・糖尿病性網膜症 ・斜視 ・眼瞼疾患 ②主な検査 ・視力・屈折・眼圧検査 ・眼底検査		講義
	3. 皮膚疾患の病態、生理、検査、治療について理解できる。		(1) 皮膚疾患の病態生理と治療	①病態生理と治療(外科治療を含む) ・湿疹・皮膚炎、蕁麻疹 ・皮膚感染症 (一般細菌・真菌・ウイルス) ・腫瘍性疾患 ・膠原病 ・薬疹・中毒疹 ・熱傷 ・凍傷 ②主な検査 ・パッチテスト ・皮膚組織生検		講義
テキスト		「系統看護学講座 成人看護学〔14〕耳鼻咽喉」 医学書院 「系統看護学講座 成人看護学〔13〕眼」 医学書院 「系統看護学講座 成人看護学〔12〕皮膚」 医学書院				
成績評価の方法		筆記試験100%				

分野	専門基礎分野	授業科目	公衆衛生学	担当講師	
開始年次	3年 前期	単位数 時間数	1 単位 1 5 時間	実務経験	
授業の目的		公衆衛生の概念と健康増進のための法制度および保健活動について学ぶ。			
授業のキーワード		公衆衛生 保健統計 法制度 感染 学校保健 産業保健			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 公衆衛生の概念を理解できる。	(1) 公衆衛生の概念	①公衆衛生の定義 ②公衆衛生活動	講義	
	2. 生活者の健康増進のための法制度および保健活動について理解できる。	(1) 集団の健康をとらえるための保健統計	①人口静態 ②人口動態 ③疾患の発生状況と健康指標	講義	
		(2) 地域保健	①母子保健 ②成人・高齢者保健 ③精神保健 ④歯科保健 ⑤難病支援・障害支援	講義	
		(3) 感染症とその予防対策	①我が国の感染症予防対策 ・ 感染症法 ・ 検疫 ②公衆衛生上の重要な感染症とその対策	講義	
		(4) 学校保健	①学校保健とは ②学校保健の実際 ・ 保健教育 ・ 保健管理 ・ 保健組織活動 ③特別支援教育	講義	
		(5) 産業保健	①産業保健とは ②職場における健康をまもるしくみ ③産業保健と看護活動 ④産業保健における今後の課題と新たな動き	講義	
	(6) 滋賀県の公衆衛生	①滋賀県の公衆衛生の取り組み	講義		
テキスト		「系統看護学講座 健康支援と社会保障制度〔2〕公衆衛生」 医学書院 「国民衛生の動向」 厚生労働統計協会			
成績評価の方法		筆記試験 100%			

分野	専門基礎分野	授業科目	健康支援論	担当講師		
開始年次	1年 後期	単位数 時間数	1単位 15時間	実務経験		
授業の目的		ヘルスプロモーションと、健康支援のためのシステムについて学ぶ。				
授業のキーワード		ヘルスプロモーション 健康政策 地域包括ケアシステム				
時間	目標	主題	内容	指導方法		
	1. ヘルスプロモーションについて理解できる。	(1)健康とは	①健康のとらえ方	講義		
		(2)健康問題の現状	①健康に関する統計 ②健康に影響を及ぼす社会的な背景	講義		
		(3)ヘルスプロモーションとは	①ヘルスプロモーションの定義 ②ヘルスプロモーションの概念	講義		
		(4)WHOのヘルスプロモーションと健康政策	①WHO活動方針 ②WHOのヘルスプロモーションと健康政策	講義		
		(5)日本のヘルスプロモーションと健康政策	①健康づくり対策 ②がん対策 ③生活習慣病対策 ④受動喫煙対策	講義		
		(6)ヘルスプロモーションの活動	①健康的な公共政策づくり ②健康を支援する環境づくり ③地域活動の強化 ④個人技術の開発 ⑤ヘルスサービスの方向転換	講義		
	2. 健康支援のためのシステムについて理解できる。	(1)地域包括ケアシステムの推進	①地域包括ケアシステムとは ②地域包括ケアシステムの背景 ③機能・構成要素 ④自助・互助・共助・公助の意義 ⑤提供されるサービス ⑥地域包括支援センターの役割と機能 ⑦多職種・多機関の連携	講義		
		(2)健康支援のための機関	①保健所の役割と機能 ②保健センターの役割と機能 ③民間や民間組織の役割 ④NPOによる活動	講義		
	テキスト		「ヘルスプロモーション」 メヂカルフレンド社 「国民衛生の動向」 厚生労働統計協会			
	成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	専門基礎分野	授業科目	リハビリテーション論	担当講師	
開始年次	2年 前期	単位数 時間数	1単位 15時間	実務 経験	
授業の目的		リハビリテーションの基礎について理解し、リハビリテーションの実際を学ぶ。			
授業のキーワード		リハビリテーション 障害 理学療法 作業療法 言語聴覚療法			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. リハビリテーションの基礎について理解できる。	(1) リハビリテーションの基礎	①リハビリテーションの定義 ②リハビリテーション対象と制度 ③疾病・障害・生活機能の分類 ④リハビリテーションの分野 ⑤経過別にみるリハビリテーション ⑥リハビリテーションにおける多職種連携	講義	
	2. リハビリテーションの実際について理解できる。	(1) 理学療法	①理学療法とは ②理学療法の種類 ③理学療法の実際	講義	
		(2) 作業療法	①作業療法とは ②作業療法の種類 ③作業療法の実際	講義	
		(3) 言語聴覚療法	①言語聴覚療法とは ②言語聴覚療法の種類 ③言語聴覚療法の実際	講義	
テキスト		「系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護」 医学書院			
成績評価の方法		筆記試験100%			

分野	専門基礎分野	授業科目	社会保障制度	担当講師	
開始年次	1 年 後期	単位数 時間数	1 単位 3 0 時間	実 務 経 験	
授業の目的		社会保障の理念を理解し、社会の中で生活する人の生活問題に対する法律、政策について学ぶ。			
授業のキーワード		憲法 人権 生活者 生活問題 社会保障 社会福祉			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 社会保障の理念と基本的な制度が理解できる。	(1) 社会保障の概念	①社会保障の理念 ②社会保障の目的 ③社会保障の機能 ④社会保障の体系	講義	
		(2) 我が国の社会保障制度	①社会保障制度の動向 ②医療保障制度 ③介護保障制度（介護保険制度） ④所得保障（所得保障制度・年金保険制度・労働保険制度） ⑤社会福祉行政のしくみ ・社会福祉と医療・看護との連携 ・社会保障、社会福祉からみた連携をめぐる課題	講義	
	2. 社会福祉の理念と、生活者としての問題に対する政策が理解できる。	(1) 社会福祉とは	①社会福祉の考え方 ②社会福祉の動向 ③社会福祉法	講義	
		(2) 社会福祉の諸制度と施策	①老人福祉法 ②障害者基本法 障害者総合支援法 身体障害者福祉法 知的障害者福祉法 精神保健福祉法 ③母子及び父子並びに寡婦福祉法 児童福祉法 ④生活保護法	講義	
テキスト		「系統看護学講座 健康支援と社会保障制度 [3] 社会保障・社会福祉」 医学書院 「国民衛生の動向」 厚生労働統計協会			
成績評価の方法		筆記試験 1 0 0 %			

分野	専門基礎分野	授業科目	総合医療論	担当講師	
開始年次	3年 前期	単位数 時間数	1 単位 1 5 時間	実務 経 験	
授業の目的		医療の現状と課題を学び、看護師の果たすべき役割について学ぶ。			
授業のキーワード		生命 健康 医療システム 医療の現状 倫理 医療の動向			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 医療・看護の原点が理解できる。	(1) 生命と健康 (2) 病気 (3) 医療の考え方	①生命現象と死 ②健康とは ①生活と病気 ①医療的ケア	講義 講義 講義	
	2. 医療の歴史と医療観の変遷が理解できる。	(1) 医療の歴史	①現代医療の起源 ②20 世紀の医療 ③医療観の移り変わり	講義	
	3. 現代日本の医療システムが理解できる。	(1) 生活と医療との関連	①日本の保険医療のしくみ ②生活と環境衛生、保健・福祉行政	講義	
	4. 医療技術の進歩の成果と課題について理解できる。	(1) 先端医療技術と課題	①現代医療技術の成果と影響	講義	
	5. 医療に対する人々の意識変革について理解できる。	(1) 医療体制と人々の意識	①日本の医療供給体制 ②人々の意識 ③インフォームドコンセントの法理 ④医療情報の開示と診療録	講義	
	6. 医療をめぐる新たな視点が理解できる。	(1) 医療の論理 (2) 医療の倫理 (3) 医療の管理	①人々の受療行動 ①生命倫理学 ①医療の質 ②医療の技術評価	講義 講義 講義	
	7. 今後の医療のあり方と医療者に必要な資質が理解できる。	(1) 保健医療の動向と医療者の資質	①保健・医療の新しい動向 ②医療者-患者関係の未来像と求められる資質 ③チーム医療・チームケア ④プライマリーケアの新たな展開 ⑤医療におけるケアの視点	講義	
テキスト		「系統看護学講座 健康支援と社会保障制度〔1〕 総合医療論」 医学書院			
成績評価の方法		筆記試験 1 0 0 %			

分野	専門基礎分野	授業科目	関係法規	担当講師	
開始年次	3年 前期	単位数 時間数	1 単位 1 5 時間	実 務 経 験	
授業の目的		1. 保健師助産師看護師法を中心に、看護職を取り巻く法的背景について学ぶ。 2. 看護職の責任と役割を学ぶ。			
授業のキーワード		医事法 保健師助産師看護師法 医療法 責任と役割			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 法に関する基礎的知識と、関係法令の基本となる法を理解できる。	(1) 法の概念	①看護業務を規定する法と倫理 ②看護者の責務と倫理 ③法の概念 ④医療職のための法規 ⑤厚生労働行政のしくみ	講義	
	2. 看護に関連する法規が理解できる。	(1) 保健師助産師看護師法	①保健師助産師看護師法の目的 ②保健師助産師看護師の定義 ③免許・籍の登録・国家試験 ④保健師助産師看護師法の変遷	講義	
		(2) 看護に関連する法規	①看護師等の人材確保の促進に関する法律と就職 ②看護師に関連する法律 医療事故、医療過誤、行政処分 ③医師法 ④医療法 ⑤保健衛生法 ⑥薬務法 ⑦社会保険法 ⑧福祉法 ⑨労働法 ⑩個人情報保護に関する法律	講義	
テキスト		「系統看護学講座 健康支援と社会保障制度〔4〕看護関係法令」 医学書院 「看護六法」 新日本法規			
成績評価の方法		筆記試験 1 0 0 %			

3. 専 門 分 野

授 業 科 目		単 位	時 間
基礎看護学	看護学概論	1	30
	共通基本技術Ⅰ (技術の概念・人間関係成立の技術)	1	15
	共通基本技術Ⅱ (環境・バイタルサイン・感染予防)	1	30
	共通基本技術Ⅲ (看護過程)	1	30
	日常生活援助技術Ⅰ (運動・休息)	1	30
	日常生活援助技術Ⅱ (清潔・衣)	1	30
	日常生活援助技術Ⅲ (食・排泄)	1	30
	診療に伴う技術Ⅰ (診療の補助技術)	1	30
	診療に伴う技術Ⅱ (治療時の看護)	1	30
	臨床看護総論	1	30
	フィジカルアセスメント	1	30
	小 計	11	315
地域・在宅 看護論	地域・在宅看護概論Ⅰ (地域と暮らし)	1	15
	地域・在宅看護概論Ⅱ (健康と暮らしを支える看護)	1	30
	地域・在宅看護概論Ⅲ (地域での療養を支える看護)	1	15
	地域・在宅看護援助論Ⅰ (健康の保持増進・疾病の予防に関わる看護)	1	15
	地域・在宅看護援助論Ⅱ (在宅で療養する人と家族の看護)	1	30
	地域・在宅看護援助論Ⅲ (在宅療養を支える援助技術)	1	30
	小 計	6	135

授 業 科 目		単位	時間
成人看護学	成人看護学概論	1	30
	成人看護学援助論Ⅰ（急性期にある対象の看護）	1	30
	成人看護学援助論Ⅱ（回復期にある対象の看護）	1	30
	成人看護学援助論Ⅲ（慢性期にある対象の看護）	1	30
	成人看護学援助論Ⅳ（終末期にある対象の看護）	1	15
	成人看護学援助論Ⅴ（がん治療を受ける対象の看護）	1	15
	小 計	6	150
老年看護学	高齢者看護学概論	1	15
	高齢者看護学援助論Ⅰ（健康支援と日常生活援助）	1	30
	高齢者看護学援助論Ⅱ（認知症と終末期の看護）	1	30
	高齢者看護学援助論Ⅲ（検査・治療に伴う看護）	1	30
	小 計	4	105
小児看護学	小児看護学概論Ⅰ（小児看護の役割）	1	15
	小児看護学概論Ⅱ（子どもの成長と発達）	1	30
	小児看護学援助論Ⅰ （疾患・障害のある子どもの看護）	1	30
	小児看護学援助論Ⅱ （健康の段階・発達段階に応じた看護）	1	30
	小 計	4	105
母性看護学	ウィメンズヘルス看護概論Ⅰ（女性の健康と看護）	1	15
	ウィメンズヘルス看護概論Ⅱ （女性のライフサイクルと看護）	1	30
	ウィメンズヘルス看護援助論Ⅰ （妊娠期・分娩期の看護）	1	30
	ウィメンズヘルス看護援助論Ⅱ （産褥期・新生児期の看護）	1	30
	小 計	4	105
精神看護学	精神看護学概論Ⅰ（精神看護の概念と健康支援）	1	30
	精神看護学概論Ⅱ（精神保健福祉活動の動向）	1	15
	精神看護学援助論Ⅰ（疾患の理解と看護の特徴）	1	30
	精神看護学援助論Ⅱ（疾病の経過に応じた看護）	1	30
	小 計	4	105
看護の統合 と実践	総合看護	1	30
	看護医療安全	1	30
	災害看護	1	30
	臨床看護実践	1	15
	小 計	4	105

授 業 科 目		単 位	時 間
臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ（看護を知る実習）	1	4 5
	基礎看護学実習Ⅱ （入院生活をおくる対象の理解と日常生活援助）	2	9 0
	基礎看護学実習Ⅲ（看護の展開）	2	9 0
	地域・在宅看護論実習Ⅰ （地域で生活する人々の健康支援）	2	6 0
	地域・在宅看護論実習Ⅱ （地域で生活・療養する人と家族の看護）	2	9 0
	成人・高齢者看護学実習Ⅰ（成人期・老年期の特徴 と健康障害をふまえた看護）	2	9 0
	成人・高齢者看護学実習Ⅱ （状況の変化に合わせた看護）	2	9 0
	小児看護学実習	2	9 0
	ウィメンズヘルス看護実習	2	9 0
	精神看護学実習	2	9 0
	統合実習Ⅰ（臨床判断能力）	2	9 0
	統合実習Ⅱ（看護の統合）	2	9 0
	小 計	2 3	1 0 0 5
小 計		6 6	2 1 3 0

分野	専門分野	授業科目	看護学概論	担当講師	
開始年次	1年 前期	単位数 時間数	1単位 30時間	実務経験	
授業の目的		看護の基盤となる概念を理解し、看護職者としての責任と役割について学ぶ。			
授業のキーワード		人間 健康 看護 看護理論 看護史 専門職 チームアプローチ			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 看護とは何かを理解できる。	(1) 看護の概念	①看護とは ②看護の定義 ③看護の役割と機能 ④看護実践に求められる倫理	講義	
	2. 近代看護の歴史が理解できる。	(1) 職業としての看護の歴史	①職業としての看護のはじまり ②職業としての看護の確立 ③職業としての看護の充実 ④職業としての看護の新たな展開	講義	
	3. 看護の対象としての人間が理解できる。	(1) 統合体としての人間	①生物体・心理社会的存在としての人間 ②ライフコースと人間 ③人間の欲求と行動	講義	
		(2) 環境と人間	①環境とは ②人に影響を及ぼす環境要因 ③個人・家族・コミュニティ・地域社会	講義	
	4. 健康について理解できる。	(1) 健康の概念	①健康とは ②健康の定義 ・WHOの定義 ・ヘルスプロモーション ・障害の定義 ③人間の健康に影響する要因	講義	
		(2) 健康に関する統計	①人々の生活と健康を示す統計 ・出生から死亡に関する統計	講義	
	5. 専門職としての看護職者について理解できる。	(1) 専門職としての看護	①専門職とは ②看護の専門職化 ・法的な規定	講義	
		(2) 看護職の養成制度	①看護職の養成制度と就業状況 ②看護基礎教育 ③継続教育 ・専門看護師 ・認定看護師 ・認定看護管理者 ・特定行為にかかる看護師の研修制度 ④看護職者の養成制度の課題	講義	

	6. 看護におけるチームアプローチが理解できる。	(1) チームアプローチ	①看護における連携・協働 ②チームアプローチとは ③多職種によるチームアプローチ	講義
		(2) チームカンファレンス	①多職種によるチームカンファレンス	講義
	7. 看護実践のための理論が理解できる。	(1) 看護理論	①看護理論とは ②理論家の業績の知識構造レベル	講義
		(2) 理論家による看護のとらえ方	①フローレンス・ナイチンゲール ②ヴァージニア・ヘンダーソン ③アイダ・ジーン・オーランド ④アーネスティン・ウィーデンバック ⑤ジーン・ワトソン ⑥ドロセア・オレム ⑦ジョイス・トラベルビー ⑧カリスタ・ロイ ⑨パトリシア・ベナー ⑩ヒルデガード・ペプロウ	講義 演習
テキスト		「系統看護学講座 基礎看護学〔1〕看護学概論」 医学書院 「看護覚え書」 現代社		
成績評価の方法		筆記試験 100%		

分野	専門分野	授業科目	共通基本技術Ⅰ (技術の概念・人間関係成立の技術)	担 当 講 師		
開始年次	1 年 前期	単位数 時間数	1 単位 1 5 時間	実 務 経 験		
授業の目的		1. 看護技術の概念を学ぶ。 2. 人間関係成立のための技法を学ぶ。				
授業のキーワード		看護技術 個人情報	リフレクション コミュニケーション	クリティカルシンキング アサーション	看護記録 報告 プロセスレコード	
時間	目標	主題	内容		指導方法	
	1. 看護技術の概念と実践に必要な要素が理解できる。	(1) 技術	①技術の定義 ②技術の本質		講義	
		(2) 看護技術	①看護技術の定義 ②看護技術の特徴 ③看護技術の原則 安全性・安楽性・自立性・経済性 ④看護技術の範囲		講義	
		(3) 看護技術の実践に必要な要素	①リフレクション ②クリティカルシンキング		講義 演習	
	2. 記録の目的と管理が理解できる。	(1) 診療情報と看護記録	①診療情報とは ②看護記録とは ・看護記録の法的位置づけ ③看護記録の目的と意義 ④看護記録の構成 ・基礎情報（プロフィールを含む） ・看護計画 ・経過記録（フローシートを含む） ・看護サマリー		講義	
		(2) 診療情報および記録の取り扱い	①記録における個人情報 ・個人情報と要配慮個人情報 ②記録の媒体 ③記録の留意事項と管理 ・記録の開示 ④看護学生の臨地実習における情報と記録の管理		講義	
		(3) 看護における人間関係の重要性を理解し、人間関係成立のための技法が習得できる。	(1) 看護における人間関係 (2) コミュニケーション	①人間関係と看護 ②相互信頼関係の構築 ①コミュニケーションの基本概念 ②コミュニケーションの基本構造 ③コミュニケーションの種類と概要 ・言語的、非言語的コミュニケーション ・コミュニケーションの技法・アサーション ④コミュニケーションに影響する因子 ⑤コミュニケーション過程の分析と活用 ・ロールプレイを用いる方法 ・プロセスレコードを用いる方法 ⑥チームにおけるコミュニケーション		講義 講義 演習 講義
	テキスト		「系統看護学講座 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ」 医学書院 「系統看護学講座 基礎看護学〔1〕看護学概論」 医学書院			
	成績評価の方法		筆記試験 1 0 0 %			

分野	専門分野	授業科目	共通基本技術Ⅱ (環境・バイタルサイン・感染予防)	担 当 講 師	
開始年次	1 年 前期	単位数 時間数	1 単位 3 0 時間	実 務 経 験	
授業の目的		生活環境の調整、バイタルサイン測定、感染予防に関する看護技術について学ぶ。			
授業のキーワード		環境 バイタルサイン 感染予防 標準予防策			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 生活環境を調整することの重要性を理解し、その方法が習得できる。	(1)療養生活の環境	①環境とは ②環境の諸要素 ③療養生活と環境 ・病室・病床 ④望ましい環境条件 温度・湿度 光 音 色彩 におい 空気の清浄性 ⑤人的環境	講義	
		(2)生活の場における環境整備	①環境整備の目的 ②環境整備における看護師の役割 ③環境整備の視点 ④病床環境の整備 ＜環境整備＞ 《ベッドメイキング》	講義 演習 演習 講義	
	2. バイタルサインの測定技術が習得できる。	(1)バイタルサインの測定	①バイタルサインとは ②体温測定 ③脈拍測定 ④呼吸測定 ⑤経皮的動脈血酸素飽和度の測定 ⑥血圧測定 (アネロイド血圧計・電子血圧計) 《バイタルサイン測定》	演習 講義	
		(1)医療関連感染	①感染・感染症とは ②医療関連感染とは ③感染の成立と経路	講義	
	(2)感染予防	①感染予防の目的 ②感染予防の方法 ・標準予防策(スタンダードプリコーション) ③感染経路別予防策 ④洗浄・消毒・滅菌 ・消毒液の希釈法 ⑤感染性廃棄物の取り扱い ⑥針刺し防止策			
	3. 感染予防の技術が習得できる。	(3)感染予防の実際	①手指衛生 ②防護用具の着脱 ③無菌操作 ・滅菌物の取り扱い 《衛生的手洗い・滅菌物の取り扱い 滅菌手袋の着脱・防護用具の着脱》	講義 演習	
	テキスト		「系統看護学講座 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ」 医学書院 「系統看護学講座 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ」 医学書院 「ビジュアル臨床看護技術ガイド」 照林社 「看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント」 メディックメディア		
成績評価の方法		技術試験30％ 筆記試験70％			

[illegible]

分野	専門分野	授業科目	日常生活援助技術Ⅰ (運動・休息)	担 当 講 師		
開始年次	1 年 前期	単位数 時間数	1 単位 3 0 時間	実 務 経 験		
授業の目的		運動と休息に関する看護技術について学ぶ。				
授業のキーワード		ボディメカニクス 体位 移動 移乗 移送 活動 運動 運動機能 休息 睡眠 リラクセーション				
時間	目 標	主 題	内 容	指導方法		
	1. 看護におけるボディメカニクスについて理解できる。	(1) ボディメカニクス	①ボディメカニクスとは ②看護におけるボディメカニクスの意義 ③ボディメカニクスの原則	講義		
	2. 安楽な体位・体位変換・移動・移乗・移送に関する技術を習得できる。	(1) 安楽な体位	①体位の種類・特徴 ②体位による影響 ③安楽な体位の保持	講義		
		(2) 体位変換の援助	①体位変換とは ②体位変換の目的・方法・留意点	講義		
		(3) 移動・移乗・移送の援助	①移動・移乗・移送とは ②歩行・移乗・移送の援助における目的・方法・留意点	講義		
		(4) 安楽な体位・体位変換・移動・移乗・移送の援助の実際	《安楽な体位の保持 体位変換》 《車いす・ストレッチャーへの移乗》 《車いす・ストレッチャーの移送》 《歩行介助》	演習		
	3. 活動・運動について理解することができる。	(1) 活動	①活動とは ②日常生活動作（ADL）と手段的日常生活動作（IADL） ③活動の意義	講義		
		(2) 運動	①運動とは ②運動機能の観察点 a) 動作 b) 姿勢 c) 筋系 d) 骨格系 e) 関節可動域 ＜筋力の測定・関節可動域の測定＞	講義 演習		
	4. 休息・睡眠について理解することができる。	(1) 休息・睡眠	①休息・睡眠とは ②休息・睡眠の意義 ③休息・睡眠に影響する要因	講義		
		(2) 休息・睡眠に関する援助	①休息・睡眠における看護師の役割 ②休息・睡眠に関する観察点 ③休息・睡眠に関する援助	講義		
		(3) リラクセーションを促す援助	①リラクセーションとは ②リラクセーションを促す援助 筋弛緩法 自律訓練法 タッチング 電法 指圧 マッサージ 呼吸法 アロマセラピー 音楽療法	講義		
	テキスト		「系統看護学講座 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ」 医学書院 「ビジュアル臨床看護技術ガイド」 照林社 「看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント」 メディックメディア			
	成績評価の方法		筆記試験 100%			

分野	専門分野	授業科目	日常生活援助技術Ⅱ (清潔・衣)	担 当 講 師	
開始 年次	1 年 後期	単位数 時間数	1 単位 3 0 時間	実 務 経 験	
授業の目的		清潔と衣生活に関する看護技術について学ぶ。			
授業のキーワード		清潔 衣生活			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 日常生活における清潔行動を理解し、清潔に関する技術が習得できる。	(1) 日常生活における身体の清潔とは	①日常生活における身体の清潔行動 入浴・整容 ②身体の清潔（入浴・整容）の意義 ③身体の清潔（入浴・整容）に影響する要因	講義	
		(2) 清潔の援助	①清潔（入浴・整容）の援助における看護師の役割 ②清潔の援助に関する観察点 ・援助の必要性を判断するための観察点 ・援助内容・援助方法を決定するための観察点 ・援助の効果・方法の妥当性を判断するための観察点 ③入浴の援助における目的・方法・留意点 入浴・シャワー浴・全身清拭・洗髪・手浴・足浴・陰部洗浄 ④整容の援助における目的・方法・留意点 整髪・髭剃り・洗面・爪切り・耳のケア・鼻のケア・口腔ケア	講義	
		(3) 清潔の援助の実際	《全身清拭》 《洗髪》 《手浴・足浴・陰部洗浄》 《口腔ケア》	演習	
	2. 日常における衣生活を理解し、衣生活に関する技術が習得できる。	(1) 衣生活とは	①衣服を用いることの意義 ②衣生活に影響する要因	講義	
		(2) 衣生活の援助	①衣生活への援助における看護師の役割 ②療養生活における衣類の選択 ③衣生活の援助に関する観察点 ・援助の必要性を判断するための観察点 ・援助内容・援助方法を決定するための観察点 ・援助の効果・方法の妥当性を判断するための観察点 ④衣生活の援助における目的・方法・留意点	講義	
		(3) 衣生活の援助の実際	《寝衣交換》 ＜寝衣・リネン交換＞	演習	
テキスト		「系統看護学講座 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ」 医学書院 「ビジュアル臨床看護技術ガイド」 照林社			
成績評価の方法		筆記試験 1 0 0 %			

分野	専門分野	授業科目	日常生活援助技術Ⅲ (食・排泄)	担 当 講 師	
開始 年次	1 年 後期	単位数 時間数	1 単位 3 0 時間	実 務 経 験	
授業の目的		食生活と排泄に関する看護技術について学ぶ。			
授業のキーワード		食生活 排泄			
時間	目標	主題	内容	指導方法	
	1. 日常生活における食を理解し、食生活に関する技術が習得できる。	(1) 日常生活における食とは	①日常生活における食 食事内容 食事行動 ②日常生活における食の意義 ③日常生活における食に影響する要因	講義	
		(2) 食生活の援助	①食生活の援助における看護師の役割 ②栄養サポートチーム ③食生活に関する観察点 ・援助の必要性を判断するための観察点 ・援助の内容・援助方法を決定するための観察点 ・援助の効果・援助の妥当性を判断するための観察点 ④食事内容における援助 ⑤食事行動における援助の目的・方法・留意点 ＜食事介助＞	講義 演習	
	2. 日常生活における排泄を理解し、排泄に関する技術が習得できる。	(1) 日常生活における排泄とは	①日常生活における排泄 ②日常生活における排泄の意義 ③日常生活における排泄に影響する要因	講義	
		(2) 排泄の援助	①排泄の援助における看護師の役割 ②排泄に関する観察点 ・援助の必要性を判断するための観察点 ・援助の内容・援助方法を決定するための観察点 ・援助の効果・援助の妥当性を判断するための観察点 ③排泄行動の援助における目的・方法・留意点 ・トイレにおける排泄の援助 ・ポータブルトイレでの排泄の援助 ・床上での排泄の援助 ④自然排泄を促す援助 ・自然排便を促す援助 ・自然排尿を促す援助 ⑤排泄障害の援助における目的・方法・留意点 ・浣腸 ・導尿（一時的・持続的導尿）	講義	

		(3)排泄の援助の実際	≪ポータブルトイレでの援助≫ ≪便器の使い方・尿器の使い方≫ ≪グリセリン浣腸≫ ≪導尿≫ <膀胱留置カテーテル管理>	演習
テキスト	「系統看護学講座 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ」 医学書院 「ビジュアル臨床看護技術ガイド」 照林社			
成績評価の方法	筆記試験100%			